

派遣専門家オリエンテーション資料

ラオス

任国情報

1997年

JICA LIBRARY



J1136256(3)

国際協力事業団

国際協力総合研修所

国際協力総合

JICA

112
70
11C

RARY

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家等JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成9年8月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1136256【3】

目 次

I 概 況.....	1
II 生活事情.....	7
1. 食生活.....	7
2. 衣 料.....	12
3. 住 宅.....	14
4. 医 療.....	17
5. 教 育.....	20
6. 家庭の使用人.....	22
7. 交通事情.....	24
8. 通 信.....	27
9. マスコミ.....	29
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ.....	31
11. その他のサービス.....	37
12. 観 光.....	40
13. 治安、緊急時の心得.....	45
14. 出入国手続および帰国手続.....	50
15. 私財の輸送、引き取り、購入.....	54
16. 社 交.....	57
17. 任国官公庁.....	59
18. 在外日本関係機関など.....	60
19. 地方都市.....	61

表-1：ラオス概況

正式国名	(和文) ラオス人民民主共和国 (英文) Lao People's Democratic Republic
独立年月日	1949年7月19日
旧宗主国	フランス
政 体	人民民主共和制
元首の名称	ヌハク・プームサワン大統領 (Nouhak Phoumsavanh) (1992年11月就任、任期5年)
位置・面積	北緯 14度~22.5度、東経 100度~ 107度 237 千平方キロメートル (注1)
首 都	ヴィエンチャン(Vientiane)
総人口	4.8 百万人 (1995年) (注3)
民族等	タイ系 (ラオ、黒タイ、白タイ、タイ・ルー族など) 50%、 プロネシア系 (カー族など) 30%、中国系 (メオ族など) 15%など 全部で68種族
公用語	ラオ語 (その他の言語としてフランス語、英語等がある)
宗 教	国教ではないが、仏教徒が95%を占める。
暦	<日本との時差> -2時間 <祝祭日> (1997年) (注2) 1月1日 国際新年 4月13~15日 ラオス新年 5月1日 メーデー 12月2日 共和国独立記念日

出所 (注1) World Development Report 1996 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

(注3) THE WORLD 1997 世界各国経済情報ファイル (財) 世界経済情報サービス

(1) 国土の概要

ラオスは南北 1,000 キロに及ぶ帯状の内陸国で (同文館資料、1992) インドシナ半島のほぼ中央部、北緯 14度~22.5度、東経 100度~ 107度に位置する。面積は 237 千平方キロメートルであり (表-1 参照)、日本の約 5分の3 (ほぼ本州の面積に相当) である (学習研究社資料、1992)。東部はヴェトナム、南部はカンボディア、北部は中国、西北部はミャンマー、西部はタイに隣接している。

国土は北部及び東部の山地と、南西部の平野の2地域に大きく分けることができる。北

部には中国の雲貴高原から続く山地が、東部のヴェトナムとの国境沿いにはアンナン山脈が走る。北部から西部にはチベットの東に源を発したメコン川が流れ、その一部はタイとの国境をなしている。

(参考文献)

【国際情報大辞典】 1992 学習研究社

【現代ラオス概説】 1992 同文館

World Development Report 1996 The World Bank

(2) 気候

気候は熱帯モンスーン気候に属し、高温多湿で雨期（5～10月）と乾期（11～4月）がはっきりしている（数値は JICA 資料、1992）。

雨期には、インド洋とシヤム湾の上空で暖められた湿気を含む南西の風が、中国大陸に向けて国土の上流を通過する際に、大量の降雨を連続的にもたらす。しかし、雨期の間に降雨が毎日あるわけではない。雨期の降雨量が不足すれば、稲作の生育に影響が出るし、逆に降雨量が短期間に集中すると、メコン川の氾濫による大洪水が発生することもある。一方、乾期は中国から乾燥した冷気を帯びた北東の風が、インド洋とシヤム湾に向けて国土の上空を連続的に南下することによってもたらされる。また、乾期でも若干の降雨量があるため、通年での農作物生産が可能となっている。

気温の地域差は極めて小さいが、降雨量ではかなりの地域差が見受けられる。

(参考文献)

【ラオスの経済社会の現状】 1990 国際協力推進協会

【現代ラオス概説】 1992 同文館

(3) 人口

1995年の人口は4.8百万人である。

1993年の調査による主要都市人口は、首都ヴィエンチャン 503,000人、サバナケット 692,000人、ルアンプラバン 365,000人、パクセ 100,000人である（数値は（財）国際協力推進協会資料）。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

World Development Report 1996 The World Bank

開発途上国国別経済協力シリーズ「ラオス」1995（財）国際協力推進協会

(4) 略史

表-2 : ラオス略年表

年	出来事
10~13世紀	中国雲南地方から南下したタイ系民族が、ラオス北部地方各地に多数のムアン（侯国）を設け、南詔王国からの流出民を吸収して拡大する。
1353年	ファー・グム侯が諸侯国を統一し、ラーンサーン王国の建国により、統一ラオス国家が成立する。
18世紀	初頭に、ヴィエンチャン王国、チャムパーサク王国、ルアンプラバン王国の3王国に分裂する。
1828年	タイがヴィエンチャン王国を併合、更に残る2国も治める。
1870年代	ラオスを属国化した後、カンボディア、ヴィエトナムを支配下においたフランスとの勢力が衝突する。
1899年	フランスがラオスをインドシナ連邦に編入する。
1945年	日本軍がラオスに進駐し、仏印軍を武装解除。ルアンプラバン国王がラオスの独立を宣言する。
1946年	日本敗戦に伴い、フランス軍がラオスに復帰。
1949年	フランス連合内でのラオスの独立が認められる。
1953年	仏・ラオス条約により、完全独立を果たす。
1954年	インドシナ休戦に関するジュネーブ協定調印。
1957年	王国政府とパテト・ラオの連合内閣が発足する。
1961年	ラオス和平に関するジュネーブ国際会議が開催される。
1963年	内戦が再発する。
1973年	「ラオスにおける平和の回復及び民族和解に関する協定」を締結。
1975年	ラオス人民民主共和国が成立する。
1977年	ヴィエトナムと友好関係を締結する。
1986年	ラオス人民革命党第4回大会が開催され、「新思考」による社会変革への取り組みが始まる。
1988年	9年ぶりに中国との外交を再開する。
1989年	建国以来初の総選挙、最高人民議会の選挙が実施される。カイソン首相は中国、日本、フランスを公式訪問。フランスと経済関係諸協定が調印された。
1990年	建国15周年記念集会在開催される。
1991年	憲法が公布される。
1992年	カイソン大統領の急死に伴い、急遽ヌハク・プームサワン第1副首相が、新大統領に就任する。憲法制定後、初の国民議会選挙が実施される。
1993年	ヌハク・プームサワン大統領とカムタイ・シパンドン首相の再任が国会で承認される。
1994年6月	外国投資促進・保護法、改正労働法施行。
1997年7月	A S E A N加盟。

- 出所 【新・東南アジアハンドブック】 1988 講談社
【東南アジア要覧】 1992 東南アジア調査会
【国際情報大辞典】 1992 学習研究社
【ラオスの経済社会の現状】 1990 国際協力推進協会
【現代ラオス概説】 1992 同文館
Country Report: Indochina; Vietnam, Laos, Cambodia 2nd quarter 1994 EIU

(5) 民族等

ラオスが歴史的にアジアの民族移動の通過地域となっていたこともあって、民俗学的・言語学的に 68 もの多くの種族がラオスに生活するが、タイ系、プロトネシア系、チベット・ビルマ系の 3 つに大別できる (数値は東南アジア調査会資料、1992)。

その中でも、低地ラオ (ラオ・ルム) と呼ばれるタイ系が、ラオ族、黒タイ族、白タイ族、赤タイ族、タイ・ルー族、プアン族、プータイ族、ニュアン族、ニヨー族、セーク族、ヤイ族など合わせて 50% を占めている (数値は同文館資料、1992)。

プロトネシア系は、中位ラオ (ラオ・トゥン) と呼ばれ、カー族など合わせて 30% を占めている。海拔 800 ~ 1,200 メートルの山麓に水田を持ち、かつ焼畑耕作を行っている (数値は同文館資料、1992)。

チベット・ビルマ系は、高地ラオ (ラオ・スウン) と呼ばれ、全体の 15% 程度を占める。漢文化を継承するヤオ族、モン族、マン族などのグループと、チベット文化の影響を大きく受け継ぐアカ族、リス族などのグループとに分けられる。共に海拔 1,200 メートル以上の高地で生活を営んでいるが、前者のグループの方が、後者より高地に住んでいることが多い (数値は同文館資料、1992)。

(参考文献)

- 【東南アジア要覧】 1992 東南アジア調査会
【現代ラオス概説】 1992 同文館

(6) 言語

公用語はラオ語 (Phasa Lao) である。言語系統的にはシナ・タイ語群のタイ語系に属している。ラオ語は、ラオス全土に普及しているが、タイ系、中国系、ヴィエトナム系住民、山地に住む少数民族などの間では、それぞれ固有の言語が通用している。

(参考文献)

- 【東南アジア要覧】 1992 東南アジア調査会

(7) 宗教

1991 年公布の憲法には、信教の自由が保証されているが、ラオスにおける主要な宗教は

南方上座部仏教（小乗仏教）であり、以前は国教として手厚く保護されていた。今でも国民の約95%が仏教徒であるといわれる。低地ラオは仏教信仰（南方上座部仏教）、中位ラオは仏教信仰とアニミズムの混合、高地ラオはアニミズム信仰という色分けができるが、人口比率から考えて仏教信仰者が圧倒的に多い。

ラオスに仏教が入ったのは、14世紀のラーンサーン王国時代で、カンボディアより伝えられたといわれる。仏教組織としては、統一ラオス仏教教会がある。仏教僧侶数は1990年現在1万人余りである。

キリスト教徒も少数ながら存在する。カトリック教徒数は約4万人（1984年、ローマ法王庁の推定による）、プロテスタント信徒数は約1万5千人といわれている（以上数値は東南アジア調査会資料、1992）。

（参考文献）

- 【新・東南アジアハンドブック】 1988 講談社
【東南アジア要覧】 1992 東南アジア調査会

（8）文化

ラオスの文化は、古くはインド、タイ、中国、19世紀末頃からはフランスの影響を受けており、仏教的色彩を帯びているものが多く見られる。

ラオ語古典文学は、タイ語古典文学の方言的な支流として位置づけられており、仏教的説話を素材にしたもの、詩形式による民話、一般的な文学上の領域に属さない碑石文・法制上の文献・星占術の物語の3つに大別される。

民主共和制移行後のラオ語文学・文芸は、政治体制や思想を反映したものが多く、旧ソ連をはじめとする社会主義諸国の作品の翻訳ものも多い。

現政府の文化政策としては、民族文化の建設、タイを中心とした外国文化との交流に力を入れている。

文化遺産としては、クメール式寺院ワット・プーがチャンパサック県にある。また、仏教寺院が豊富で、ルアン・プラバン王朝の都として栄えたラオスの古都ルアン・プラバンの町全体が1995年にユネスコの世界文化遺産として登録されている（数値は日本ユネスコ協会連盟資料、1996）。

（参考文献）

- 【新・東南アジアハンドブック】 1988 講談社
【国際情報大辞典】 1992 学習研究社
【現代ラオス概説】 1992 同文館
日本ユネスコ協会連盟資料 1996

（9）マス・メディア

本文「9. マスコミ」の項参照。

表-3：経済指標 [ラオス]

主要経済指標 の推移		(1992)	(1993)	(1994)
	GDP (十億キップ) (注1)		844	951
一人当たりGNP (ドル) (注2)		250	280	320
実質GDP成長率 (%) (注1)		7.1	5.9	8.2
消費者物価上昇率 (%) (注1)		9.9	6.3	6.8
輸出額(fob)(百万ドル) 輸入額(cif) (注1)		133 253	241 432	300 564
主要輸出入相手国 (注5)		輸出 (1995年) ヴィエトナム (33.0%) 輸入 (1995年) タイ (59.1%)		
経常収支 (百万ドル) (注1)		-111.3	-155.9	-222.6
対外債務残高 (百万ドル) (注4)		1,917	1,985	2,080
債務返済比率 (%) (注4)		4.8	8.8	7.7
外貨準備高 (百万ドル) (注2)		N.A.	154	68
通貨 (注5) (1996年12月末)	通貨単位：キップ (Kip) 1ドル=935.000キップ			
会計年度	10月1日～9月30日			

出所 (注1) Country Report:Cambodia,Laos 3rd quarter 1996 EIU

(注2) World Development Report 1994-1996 The World Bank

(注3) Year Book of Labour Statistics 1995 1995 ILO

(注4) World Debt Tables 1996 1996 The World Bank

(注5) THE WORLD 1997 世界各国経済情報ファイル (財) 世界経済情報サービス

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

この国の主要民族の主食はもち米である。あらかじめ水に浸しておいたもち米を、竹製の籠に入れ、鍋にかけて蒸す。邦人はうるち米を市場から購入して調理している。人によってはもち米を少々混ぜて、日本米に似たねばりを出して食べる。

野菜、果物の一部と川魚、肉を除き、ほとんどの食料品は輸入品であり、タイの産品が主である。外国人相手の食料品店は 1989 年半ば頃から営業を始めた。現在は数店あり品数も豊富になり大変便利になった。しかし価格は割高で、日本の食料品は国内価格の 2 倍、物によってはそれ以上である。食品衛生は比較的良好であり、肉や魚にハエがたかっているようなことはなく、清潔に売られている。包装もポリエチレンの袋が一般的で、かつての日本のように新聞紙を使うようなことはまずない。しかしながら、肉や魚などの生ものは自分の目や鼻できちんと確認してから買うことが大切である。

ラオス料理は南国の料理らしく辛いものが多いが、総じて日本人の口にあう。主食はもち米で、麺類もあることなどから、出張で地方に出ても食事に困るという話は余り聞かない。料理の辛みも外国人には適度に調節してくれる。

(2) 主な食料の出回り状況

外国人相手の食料品店で入手できる品は次の通りである。

調味料……しょうゆ、酢、みりん、クノールスープ、マヨネーズ、チーズ、バター

乾物……干し椎茸、のり、コンブ、小豆、パン粉

冷凍食品……サバ、シシャモ、イカ、エビ、カニかまぼこ、ちくわ、スモークサーモン、輸入牛肉、鳥肉（プロイラー）、ベーコン、コーン

缶詰……ツナ、アスパラ、コーンビーフ、コーン、ケチャップ

茶……ウーロン茶、緑茶、紅茶、ジャスミン茶

その他……パック詰め豆腐菓子、米製菓、クッキー、チョコレート、せんべい

魚介類についてはタラート（市場）・トンカンカムに 3～4 軒の海産物を売る店があり、氷詰めのエビ、イカ、アジ、ちくわなどが売られているが、鮮度はよくない。するめ、干しエビなどはタイ産品が常時出まわっている。タラート・トンカンカムの近くの冷凍食品専門店には、冷凍のエビ、イカ、アジなどが売られている。川魚はこの市場でも売られており、うなぎ、なまず、テラピア、鯉などの大型魚からメダカ程度の小魚まで売られている。ナムグムダムサイトではダム湖で釣れた新鮮な魚を売る店が軒を並べている。観光がてら魚を買い求めるのも楽しい。そのまま湖畔のレストランに持参して料理してもらうのも趣がある。ラオ人は日本人同様、魚を好んで食べる。鮎の元祖と思われるもの、軽く酢じめにしたものから、収穫後の水田、小川、用水路の小魚を干したものが惣菜として一般的である。

牛肉、豚肉の価格差はないが、鳥肉は高く売られている。鳥は全て地鶏で頭、足、骨つきのまま 1 羽単位で売られている。

野菜類についてはじゃがいも、やつがしら、かぼちゃ、にんじん、大根、ハス、ニンニク、キャベツ、白菜、キュウリ、レタス、わけぎ、ショウガ、なす、トマト、カリフラワー、ブロッコリー、インゲン、ピーマン、もやし、にがうり、オクラ、しそ、わらびなど各種のものが売られているが品質はあまり良くない。総じて雨季には野菜の品数が少なくなり割高となる。ラオ人は生野菜を多食し、ラオ料理には生野菜の大盛りが必ず出される。レタス、インゲン、ハッカ菜、わけぎ、もやし、青ナスなどをスープに入れたり、肉を巻いたりして食べる。また、タケノコを多食することにも特徴がみられる。指の太さ程のものから、腕の太さぐらいのものまで種類は豊富であり、年間を通して出まわっている。ドクダミ、パクサメットという木の葉も料理の種類によってはどっさりと出される。これらは薬膳と言った趣でそれぞれ薬効が信じられている。パクサメットは殺菌作用があるといわれており、葉の種類によってはマラリア予防にも効果があるといわれている。これらの薬草・薬葉は少し渋みがあり、料理の口直しの効果もある。

果物はタイ産が主であるがバナナ、みかん、リンゴ、パイナップルが1年中出まわっている。ランブータン、ドリアン、マンゴー、マンゴスチン、龍眼、ジャックフルーツもタイ産が主である。

酒類についてはウイスキー、ブランデー、リキュール、ワインの輸入品が多く売られている。税金が安いので、バンコク等の国際空港の免税店と値段はさほど変わらない。ビールは国産の「ビアラーオ」がある。ビアラーオの生も樽で売られており、レストラン等で飲むことができる。最近、缶ビールも発売された。その他の缶ビールは輸入物のシンハー、タイガー、カールスバーグ、ハイネケンが出まわっている。地酒として、もち米から作った蒸留酒「ラオラーオ」が庶民の酒として主に地方で愛飲されている。これは、琉球泡盛と全く同じ製法と言われている。この他に赤米で造った発酵酒「ラオ・カオカム」という少々甘い赤く透き通った綺麗な酒がある。また、瓶にもち米を入れて発酵させた「ラオハイ」と呼ばれる、あまり強くない甘いドロクがある。壺の中は発酵・乾燥したもち米が詰まっております、飲むときに水を注ぎながら酒にし、飲み回す。パーティーなどの席では竹の長いストローで2～3人がかりで飲み干すなどしている。

ラオスの食品の中で特筆すべきはフランスパンである。市中の市場や空港の土産物売り場で1本 300kip で売られており、とてもおいしい。ラオス人はこの中に野菜や肉をはさんで食べている。チャオ・アヌー通りにクロワッサン (300kip) 、サンドウィッチ (大 700kip) 、ハンバーガー (500kip) 、菓子パンなどを売る店が軒を並べており、夜になると揚げパンを造る屋台も出て、様々な味が楽しめる。また、和菓子に似た甘いものを売る夜店がたくさん出るので、味見して歩くのも楽しい。

飲料水は水道水を一度煮沸してから飲むように勧められている。浄水場は日本からの技術援助等で全く問題はないが、送水途中の汚染の可能性はある。最近、ラオ製、タイ製、フランス製等のミネラルウォーターがどこにでも販売されている。また、販売・宅配業者と契約すると配達をしてくれる (PHOMMALINH DRINKING WATER : 電話 313020) 。1ケース (24本入り) や10リットル入りなどがある。衛生面の表示はないが、まず問題はない。

(3) 食料の入手

ラオパニット

所在地：チャオ・アヌー通りとサムセンタイ通りの交差点。

ピンボンマーケット（本店）

所在地：サムセンタイ通りホテルエイジアンパビリオン斜め向かい。

ピンボンマーケット（支店）

所在地：サムセンタイ通りエガラットホテル横の角。

シームアンマーケット

所在地：サムセンタイ通りとセタティラート通りが交わりタドゥア通りになる所。

上記以外にも外国製品を売る店が増えてきている。一般の市場は大小あるがタラート・サオ（旧朝市）、タラート・レーン（夕市）の2大市場をはじめタラート・トンカンカム、タラート・ドンパラン、タラート・シーカイなどに食料品、雑貨、衣料などが売られている。タラート・サオでは電気製品が数多く売られている。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

冷蔵庫、炊飯器、電気ポット、電気オーブン、ガスレンジ、トースターはタラート・サオやその近辺の電気店で輸入品が売られている。電子レンジはカタログをみてバンコクから取り寄せる必要がある。包丁は洋式包丁で質が悪い。まな板はヤシの木などを切った丸型が普通であるが、衛生面からプラスチック製をすすめる。鍋、フライパン、割箸、竹箸、食器、スプーン、フォークなどは選ばなければ購入可能である。グラス類はタラート・サオで真贋混じってチェコ製ボヘミアングラスが売られている。なかなか手の込んだカットグラスが各種あり、価格も日本に比べて安い。食器洗剤は、タイで製造された日本企業製品などがある。

(2) 日本から持参したほうが良い食器、調理器具など

ご飯茶碗、汁椀、漆器類、箸、箸置、おろし金、きゅうす、湯呑茶碗、茶濾し、すりばち、お盆など、持参したほうが良い。電圧は 220 V、50 サイクルなので電気製品は当地で購入したほうがよい。なお、コンセントの形状は日本と同様の型と、丸い 2 本棒型の両方が使えるようになっているが、はまり具合は日本で使われている形の方がよい。日本のコンセントがそのまま差し込めるので、間違えて日本の 100 ボルトの器具を差し込み壊してしまう事故が多い。

1-3 外 食

(1) 飲食店

ビエンチャン市内には日本料理、中華料理、フランス料理、イタリア料理、ラオ料理、タイ料理、ベトナム料理等があり、外食に不自由することはない。グループで利用する場合は予約をしたほうがよい。チップは特に必要ない。

日本人がよく利用する店は次のとおりである。

ランサンホテル内レストラン

料理名：日本料理・フランス料理

電 話：214102

所在地：ファーグム通り

サクラ（協力隊員割引有り）

料理名：日本料理

電話：212274

所在地：ルアンプラバン通り。ノホテルホテルの近く。

古都

料理名：日本料理

電話：412849

所在地：タラート・サオから日本大使館へ行くシーサンボン通りの途中。

ラオ・レジデンス（夜はラオダンス有り）

料理名：ラオ料理

電話：413562

所在地：タットルアン通り

サロンサイ（夜はラオダンス有り）

料理名：ラオ料理

電話：214114

所在地：ランサンホテルの斜め向かい。

スクビマンレストラン

料理名：ラオ料理

電話：214441

所在地：タット・ダム横

クアラオ（夜はラオ音楽演奏有り）

料理名：ラオ料理

電話：215777

所在地：サムセンタイ通り

香港レストラン

料理名：中華料理

電話：213241

所在地：サムセンタイ通り

広東酒家（クアントウン・レストラン）

料理名：中華料理

電話：217364

所在地：チャオアヌ通り

パラソル・ブラン（ゲストハウス兼）

料理名：フランス料理

電話：412903

所在地：地理局隣

ナンプー

料理名：フランス料理

電話：216248

所在地：ナンプー広場

ヨーロッパ (ゲストハウス・ディスコ兼)

料理名：スイス料理などヨーロッパ料理

電話：413651

所在地：ドンパラン通り奥

オペラ

料理名：イタリア料理

電話：215099

所在地：ナンブー広場

タージ

料理名：インド料理

電話：212890

所在地：ナンブー広場

(2) その他の飲食店

ラオ風すき焼き、タイ料理、ベトナム料理店があり、米粉を原料としたそば（ファー）やラーメン（ミー）店は多数ある。タイ風すき焼きは、サムセンタイ通りにある「美麗海鮮火鍋、SUKIYAKI TEA（電話 214343）」がおいしい。ロシア文化センター前の韓国料理も安くておいしい。また、インターホテルの1階にあるレストランでは、鹿肉のステーキが食べられる。米国大使館裏にはルアンプラバン料理店（サラ・ルアンプラバン）がある。街の食堂は比較的衛生的であり、味も日本人の好みになっている。値段はラーメン大盛り一杯が1,000kip程度である。

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

気候は雨期（5～10月）と乾期（11～4月）に大別される。また酷暑期（4～10月）と、やや冷涼な時期（11～3月）に分けられる。雨期の雨は夜明け前に降ることが多く、日中に降る場合は風をともなって嵐のようになる。したがって雨傘を利用することは少ない。酷暑期は相当の暑さである。11月に入るといくらか涼しくなり、北の季節風が吹くときには半袖でいると寒さを感じることもある。したがって冷涼期のための薄手のセーター、カーディガンなどの上着類と就寝時の厚手の寝間着を用意したほうがよい。また、北部では季節によって零度近くまで下がる地域があるので、北部山間部に居住・出張する人は冬支度も必要である。

通常ヴィエンチャンでは、男性は半袖シャツまたはスポーツシャツにズボン、外国人女性はワンピースまたはブラウスにスカート姿である。当地の女性の外出着は「シン」という、下部に刺繍の入った巻スカートにブラウスである。女性のミニスカートは一般的ではなく、丈の短いスカートはひんしゆくをかうので避けるべきである。ジーンズは若い世代が着るようになってきた。外国人は生地を指定、または持参して仕立ててもらう人が多い。高級生地はなく比較的安価であり、2～3日で仕上げてくれる。自分の好みで種々の仕立てをするのも滞在期間の楽しみのひとつである。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

下着類は適当なものがないので特に持参するべきである。またセーター、カーディガンなどの冷涼期に必要な衣類も持参するとよい。スポーツタイプの靴はタイ製品で間に合うが、いわゆる紳士靴、婦人靴は品数が少ないため持参したほうがよい。子供や乳幼児用についても同様である。またエプロン、室内スリッパも売っていないので持参する。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

背広や婦人服の仕立屋は比較的多く、安価で仕立てることができる。既製服には良い物が少なく、特に婦人服は日本人に合うデザインがないため、仕立ててもらうとよい。ただし高級な生地はなく、上質な仕立てでもないので普段着の調達が適当であろう。男性の場合、役所や冠婚葬祭の場でサファリスーツがあると便利である。生地を指定して仕立てた場合、上下合わせて40～50ドル程度である。

スタイルブック、生地などを日本から持参して仕立ててもらうのもよい。ボタンは種類が少ないので持参するとよい。

日本式の夏掛け布団は多く販売されている。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-2 礼 装

(1) パーティー

男性の場合、通常のパーティー、式典は軽装で行われる。ネクタイを着用することは少なく、インドネシアのバティックを着用する人が多い。しかし、公式の衣服としてダークスーツ（夏服）は必要である。男性は公的な場でも着用出来るサファリスー

ツを1着仕立てておくと便利である。

女性は見栄えのするワンピースで対応できる。和服を着る機会は少ないが、公式パーティーや自宅に招待する際に着用すれば友好親善に役立つ。また、シン(前頁参照)を仕立てておくと、どの様な席にも通用して便利である。

(2) 式典

パーティーの項参照。

(3) 冠婚葬祭

結婚式に招待される機会は数多いが、ほとんどネクタイを必要としない。式と披露宴があり、式は身内で新婦の家で行われる。披露宴はホテルや新婦の自宅の庭で行われる。服装は普段着で十分である。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

洗濯は自宅で行うのが普通であるが洗濯屋もある。ドライクリーニングとスチームランドリーは、サムセンタイ通りに数軒あり、背広などのクリーニングは可能であるが、高級品は避けた方が安全である。電気アイロン、スチーム付きアイロンは最近出まわようになってきた。電気洗濯機は二槽式、全自動式ともに購入できる。洗剤はタイで生産された日本企業製品などが出まわっている。

(2) 仕立て、修繕

該当情報なし。

(3) 保管

毛皮製品を持参した場合は、点検、虫干しを繰り返す必要がある。防虫剤は持参した方がよい。また、雨期のカビの発生にも注意したい。蟻による食害が予想されるので密封ケースに入れて持参するとよい。また、木綿を喰う虫もいるので注意が必要である。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

独立家屋はかなり増えてきており選択の余地がある。最近建築された物件は見栄えは良いが、庭が狭かったり出入りに不便であったりする。特に新築家屋は水道・下水・雨期の雨漏り・洪水・進入道路の状況等が分からないので注意が必要である。また、家賃は外国人の増加に伴って高くなる傾向で、1ヶ月 1,000～1,500 ドルになっている。また、空き巣が多くなってきている。フェンスの強化、防犯灯の増設、窓鉄格子の強化など、家主に交渉して施設面で万全を期したい。夜警や昼の門番兼庭師を雇う場合、必ず身元調査をして信用できる人物を雇うようにしたい。犬を飼うことも防犯面で大きなメリットがあるが、帰国時の処遇を考えて飼うようにしたい。動物病院は比較的多い。1回 1,500kip で狂犬病等の予防接種も行っており、時期をおいて3回必要である。

3-2 ホテル事情

諸外国との交流、特に隣国タイとの交流が活発化しており、外国資本により多くのホテルが建設されている（1泊 20～70 ドル程度）。そのため供給過剰による値引き合戦が行われており、ホテルによっては月極にするとかなりの割引をるところもある。日本人がよく利用するホテルは次のとおりである。

（料金は、シングル、ツイン、スイートの順。サービス料、税金込み。ドル表示）

ホテル名：ノホテル

所在地：ルアンプラバン通り

TEL：213570 ～ 1

FAX：213572～ 3

料金： 60、100、120～140

ホテル名：ロイヤルドックマイデーン（紅花）

所在地：ランサン通り

TEL：214455

FAX：214454

料金： 80、90、130

ホテル名：ランサン

所在地：ファークム通り

TEL：214102 ～ 6

FAX：214108

料金： 47、61、74～89

ホテル名：タイパン

所在地：ファークム通り

TEL：216907 ～ 9

FAX：216223

料金： 54、68、－

ホテル名：エイジアン・パピリオン

所在地：サムセンタイ通り

TEL：213430 ～ 1

FAX：213432

料金 35、35、60

ホテル名：ラオプラ

所在地：サムセンタイ通り

TEL：218800

FAX：218808

料金：20、35、-

ホテル名：バンサナ

所在地：ポンタン通り

TEL：414189

FAX：413171

料金：35、46、-

ホテル名：ホテルドウアンデン

所在地：ノーケオクムマー通り

TEL：222301-3

FAX：222300

料金：22、-、-

上記ホテルはいずれも長期滞在可能である。長期滞在者への料金の割引はホテルによって違うが、ドルの前払いで10～30%近くの割引が可能である。専門家は住宅が見つかるまでホテルに滞在するしかないが、例えばノボテルホテルの場合、1ヶ月契約をすれば朝食付きで950ドル/1ヶ月(朝食無しの場合は800ドル)で3ヶ月以上滞在の場合には朝食付きで800ドル/1ヶ月。上記以外にも長期滞在者用のゲストハウスは市内に多数ある。シャワー、冷房付きで1泊20ドル前後で宿泊できる。

3-3 住宅の探し方

できれば既に日本人が居住しており、状況のわかる物件がよい。また、即断せず気長に、物件を何軒も見ても決めること。必ず間に知人、または世話人を入れて借りる方がよい。斡旋業者はいるが、知っている物件が少なくあまりあてにならない。

3-4 住宅の選定上の留意点

選定上で最優先すべき事は治安の良いことである。次の点に特に留意する。

- ・空き地に隣接していないか。
- ・フェンスの高さは十分か。
- ・付近に不特定多数の人の集まる商店や寺院等がないか。
- ・夜はどの程度、暗くなるのか。

窓はガラス窓の内側に鉄格子と網戸が必須。塀は完全に家の周囲を囲んで十分な高さがあり、上部には割れたガラス瓶、または有刺鉄線が張り巡らせてあること。塀のすぐ内側に立ち木があるのは、防犯上好ましくない。1階建ては2階建てに比べて空き巣が入りやすい点も考慮すべきである。

電話が無い家は絶対に借りない。「電話はすぐに入る。」と言う家主の口約束を信

用してはいけない。各室ごとにエアコンがあると良いが、少なくとも寝室に1台は必要である。古い住宅では旧ソ連のエアコンが設置されているが、音がうるさく暑い夜にエアコンをつけるとかえって眠れなくなるので注意が必要である。家屋の電気類（部屋の蛍光灯、夜間照明灯等）は必ずスイッチを入れて確かめること。電球切れや配線不良は契約前に必ず直させる。これら電気類の確認と防犯面での確認のため、住宅の下見は昼間だけでなく夜間にも行なう。また十分な水圧があるか、水漏れはないか、便所の水流は十分か、など水回りにも注意が必要である。

夫人に先立っての着任で住宅を決定する場合でも、夫人の意を十分に汲んで決定する必要がある。例えば台所の広さ・使い勝手、冷蔵庫の数・大きさ、各部屋の収納スペースの容量・機能等々、ふだん専門家自身が使わない施設については、選択にあたって失念することがありえるので要注意である。

3-5 住宅の契約

交渉は間に人を入れた方が感情的にならずに出来る。家賃は前払いが広く行われており、だいたい3ヶ月程度の前払いを要求される。家主によっては6ヶ月～1年を要求することもあり、これも値引き交渉の一つの材料となる。設備、不良箇所は契約前に指摘をして直させる。建物本体の修理を家主の負担とするのが一般的である。しかし、なかなか修理をしてくれないことが多い。このため、契約はあまり長期にせず3ヶ月毎とし、契約更新のたびに家の修理を家主に負担させるのも一方法である。当地ではほとんど家具付きであるが、十分揃っているとは言い難い。また不要な家具が置いてある事もあるので、必要な物をそろえて貰うよう、家主と交渉する。断水はあまりないが、貯水タンクの有無を調べておいたほうがよい。貯水タンクは比較的簡単な工事と安い費用で設置できるので、なければ契約時に設置を依頼するとよい。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気、水道、ゴミ収集代は毎月、前月分の請求書が届けられる。電気代、水道代は毎月検収員が使用量を点検し、コンピューターで打ち出した請求書が届けられる。これは郵便局で支払う。ゴミ処理は地区により収集回数が異なる。毎週1～2回、市指定のごみ箱（竹製）を家の前に出しておけば回収してくれる。料金は5ドル～10ドル/月である。これは検収員に直接支払い、領収書を受け取る。電話代は2ヶ月遅れで請求がくる。これには市外通話一覧が日付順に添付されている。回線使用料4,500kipと電話機使用料4,000kip、計8,500kipが基本料であり、後は使用料である。ちなみに日本へは1分間2,300kipである。これらの料金も請求書を持って郵便局に支払いに行く。これらの名義は家主名にした方が手続上、便利である。領収書はきちんと保管しておくことが大切である（支払い済み分の再請求を受けることがよくある）。屎尿処理は貯留槽を設けた吸い込み式であるため、経費を必要としない。

3-7 その他

当地には雑巾というものがないので、マーケットでモップを購入することになる。日本から雑巾を持参してもよい。掃除機は購入できる。質は良くないが、ほうき、ハタキも購入できる。枕は種類が少ないので、日本から持参するとよい。

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

ラオスに入国するために必要な予防接種はない。しかし、破傷風、A型・B型肝炎、狂犬病の接種は受けてくるべきである。接種可能であれば、日本脳炎、ジフテリア(散発的に流行る)も受けた方がよい。

(2) その他の準備

眼鏡等の用意と歯の治療を済ませてから赴任することは常識である。当地にも歯科医、眼鏡店はあるが、あまり勧められない。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

当地の医療水準は極めて低く、また医療機器や器具等も旧式なものが多い。実際に邦人が当地の医療機関を利用するのは、眼科・皮膚科・整形外科等の専門一般の診察や応急処置、胸・腹部や骨等のレントゲン撮影、簡単な血液検査等、ごく限られたものにすぎない。したがって、手術や入院を要する疾患の場合には、隣国のタイに渡った方が安心である。1994年4月にメコン友好橋が完成してからは、タイへの入国も容易になった。ヴィエンチャンから対岸の町ノンカイまでは、国境での手続の時間を加算しても1時間もあれば十分である。

ヴィエンチャンで邦人が利用できる医療機関は次のとおりである。

国立マホソット病院

診療科目：総合病院(外国人専用総合クリニック有)

所在地：マホソット通り

電話：214018

市立セタティラート病院

診療科目：総合病院

住所：タットルアン広場前

電話：412783

国立ミッタパーブ病院(別名：150床病院)

診療科目：主として外傷・整形外科

住所：ポントン地区

電話：413302

どの医療機関を利用するにしても、軽症かやむを得ない状況に限られている。

(2) 緊急時の対応と措置

諸般の事情を考慮して、緊急の場合にはただちにタイのノンカイ(約30Km)やウドンタニ(約70Km)の病院に移送する事が在留外国人の間で一般的である。救急車は上記医療機関が保有し、タイ側まで移送可能である。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

下痢止め、鎮痛剤、風邪薬、目薬、消毒薬、かゆみ止め、解熱剤、湿布薬、虫よけスプレー等。入手可能であれば抗生物質。持病のある人は持病の薬を持参すること。

また、歯ブラシや避妊具に良質の物がないため必要量を持参するのが望ましい。

(2) 任国で調達できる医薬品

ひとつおりの薬品が薬局で入手できる。フランス製、タイ製、ドイツ製、ベルギー製、中国製がある。ただし日本人には馴染みのない薬のために不安がある。また、中国人の経営する漢方専門の薬局があり、正露丸もある。生理用品、包帯、ガーゼなども入手できる。医薬分業体制であるが医師の処方箋がなくても自由に購入できる。

(3) 任国で調達できる衛生用品

トイレットペーパー、ティッシュペーパー、各種洗剤が入手可能。内押式生理用品については入手不可能。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

医薬品中の成分含有量が日本のものと異なることがある。また、有効期限をよく確かめることが必要である。

4.4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

妊娠検査及び妊婦検査は前述の病院でもできるが、出産はタイのバンコクか日本で行うことが望ましい。ピエンチャンからメコン架橋（フレンドシップ橋）を渡り、ノンカイやウドンタニでも出産できるが、バンコクには日本語のできる医師や看護婦のいる病院があり、安心できる。

<バンコクの日本語で受診できる病院>

プララーム 9

電話：66-2-248-8020 (Ms. カマタ)

タイジェネラルホスピタル

電話：66-2-314-6770～9、318-0066

サミテベ

電話：66-2-392-0011～9

バムルランド

電話：66-2-253-0250～69

(2) 出産後の対応

乳児検診、予防接種、育児相談なども引き続き上記病院で行うことが望ましい。

(3) 育 児

育児用品は、哺乳瓶、紙おむつ、粉ミルク、ベビーソープ、ベビーパウダー、衣料など種類は少ないが販売されている。タイに出ればタイ製の明治、森永の粉ミルクもある。しかし乳児のためには日本で使い慣れた粉ミルクや育児用品の持参が望ましい。乳児を育てる上で汗疹には十分の注意が必要である。また雨期にはベビーベッドに蟻が入ることがあるので特に注意を要する。

4.5 手 術

(1) 任国で可能な手術

国立マホソット病院や市立病院では消化器系、整形外科、産婦人科等の手術が行われている。外国人が手術を必要とする場合はタイにて受ける例が多い。

(2) 手術設備の状況

医療機器・器具は古い物が多く、病院によっては1975年の革命以前の物を使用している。

(3) その他の留意点

前述のように当国の医療事情は決して良いとは言えない。したがって、治療方法について心配する以前に、病気や怪我をしないよう心がけるべきである。

4.6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

1994年の統計で最も多いのがマラリアであった。ラオスのマラリアは80%以上が熱帯性マラリアであり、クロロキン耐性も高い(RI 70%、RII+RIII 30%)。ただしヴィエンチャン市内においては感染の危険性は低い。他に、風邪、肺炎、結核などの呼吸器疾患、赤痢を含む下痢症がある。日本人の間で比較的多いのがむし歯、下痢症、風邪、流行性結膜炎、皮膚病などである。

(2) 風土病・伝染病

前記の疾病に加えて、回虫や赤痢アメーバによる寄生虫疾患がある。地方においてはマラリア対策、ビエンチャンでは雨期のデング熱対策が必要である。いずれの地域も蚊に対しては十分な予防策が必要である。地方ではコレラが流行することもある。

(3) 有害動物、病害虫

狂犬病のおそれのある野犬、希ではあるがコブラなどの毒蛇がいる。またサソリなどに刺されることもある。ゴキブリ、ネズミは多くみられる。雨期には蟻が寝室に侵入し、咬むことがあり乳幼児は注意が必要である。これには「アリの巣コロリ」が有効である。また、庭の溜まり水などがデング熱を媒介する蚊の発生源となるため、周辺に溜まり水を作らないよう注意したい。

4.7 保健衛生

(1) 飲料水

地方においてもプラスチック容器入りのミネラルウォーターがでまわっている。各農家前に置かれている水瓶には、衛生上、問題があることも考えられるため、地方出張の際には注意が必要である。

(2) 濾過器の入手

濾過器は売られていない。

(3) その他の留意点

ラオス当局は「1995年12月現在、ラオス国内で10名のエイズ患者、および55名のHIV感染者を確認した。」と報告している。しかし、WHOでは「感染者は推定で2,260人に達する。」と報告している。

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

この国の教育制度は5・3・3・4制である。それぞれ日本の小学校、中学校、高等学校、大学に当たる。その前に保育園、幼稚園がある。高等学校の成績によって国立大学、政治・技術学校へ2～3年間通うことができる。また、高等学校卒業時には外国の大学への留学生試験が受けられるがかなりの競争率である。特に日本、オーストラリアは人気が高い。

最近英語学校が盛んになり熱心に勉強する人が増えている。オーストラリア文化センターの英語学校をはじめ、国立大学の英語専修コースなどは授業料も高いが、かなりのレベルの教育が行われている。一般の英語教室は個人が行っており、授業料も安い。フランス語の学校もある。それぞれラオ人のみならず外国人も入学できる。

教育制度は出来上がってはいるものの、苦しい財政事情から地方の教育施設の水準は貧弱である。子供達も農作業や家業の手伝いのため、なかなか学校に行けない状況にある。

(2) 日本人学校

補修校を含めて現在はない。

(3) 現地校、外国人学校

現地の学校への外国人の入学は、校長や村の有力者などへ相談すればいつでもできる。外国人学校は英語による授業を行っているビエンチャン・インターナショナルスクール (VIS)、デイスタースクール、モンテッソーリープレスクールがあるほか、フランス語による授業を行っているエコール・ホヘットがある。邦人子弟は幼児・小学生とも VIS に通園・通学している。

VIS

所在地：サバソントイ通り

電話：312818

デイスタースクール

所在地： That Luang Rd. (タットルアン通り) 大蔵省の斜め前。

電話：414264

モンテッソーリープレスクール

所在地： Phonkheng Rd. (ポンケン通り)

電話：413723

エコール・ホヘット

所在地： Thadeua Rd. (タッドウア通り)

電話：312968

各グレードの対象年齢は保育園は4才以下、幼稚園は5～6才、小学校は6～12才である。ただし、日本人児童の場合は年齢よりも英語、フランス語の能力によってグレード分けされている。教科は英語(フランス語)、算数、理科、社会、美術、体育、音楽でカリキュラムが組まれている。6～8月が夏休みで8月末から新学期が始まり、年末・年始休みと春休みが数日ある。2学期制である。

(4) 幼稚園

前項参照のこと。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

該当情報なし。

(2) 現地校、外国人学校

クラスに空きがあれば随時入学できるが、外国人が増えたことにより、いずれの学校も定員を満たしているため、新学期まで待たされることが多い。

VIS

授業料：保育園…年 2,150 ドル、幼稚園…年 3,150 ドル、小学校…年 4,250 ドル
デイスタースクール

授業料：保育園…年 1,250 ドル、幼稚園…年 1,325 ドル、
小学校 (1,2 年) …年 1,535 ドル、小学校 (3~6 年) …年 1,645 ドル
モンテッソーリープレスクール

授業料：月 80 ドル

(3) 幼稚園

前項参照のこと。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

前述のデイスターや VIS の図書室には英語、ドイツ語などの絵本があり、貸し出しもしている。わずかではあるが日本語の図書もある。

(2) スポーツ施設

オーストラリア大使館附属 (オーストラリアンクラブ・会員制) のプールが利用できる。市内のホテルにもプールがあるが、水質を確かめてから利用したほうがよい。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

家庭教師はいないので、親が教えることになる。英語の教材は初歩程度のものならばタラート・サオなどで入手できるが、日本から持参した方がよい。

(2) 通信教育

海外子女教育財団が、通信教育を実施している。小学校、中学校の国語、数学、理科、社会などが受けられる。詳細については下記に問い合わせるとよい。

東京本部

住所：〒 105 東京都港区虎ノ門 1-21-17 虎ノ門 NNビル 6 階

電話：03-3580-2521

関西分室

住所：〒 530 大阪市北区梅田 1-3-1-200 大阪駅前第一ビル 2 階

電話：06-344-4318

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

日本語教育関係教材

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

当国の家庭の使用人の雇用事情は他国と若干事情が異なり、外国人に雇用された経験のない人が多い。雇用に当たっては知人に紹介してもらい、当事者間で雇用条件を決めることになる。実働1日8時間、通勤制で日曜休みが一般的である。英語を話せる使用人を雇うことはほとんど不可能である。雇用主が積極的にラオ語を修得しないと思わぬ誤解が生じることになる。また、一度外国人に雇用された人を雇う場合は、何故、前の雇用が解除になったかを確かめるなど、より慎重になったほうがよい。雇用するのはコック、清掃担当者、運転手、夜警であるが、家屋の構造によってはガードマン兼庭師の雇用も必要となる。

一般的にラオ人は性格温厚で付き合いやすい。その反面、Noと言う事を失礼と考えているのか、理解していなくても頷いてしまうことがあり、いつまでたっても指示した用事をやってもらえないことが間々ある。

6-2 運転手

(1) 雇用

雇用する際は現地の事情に明るい人、または長期滞在の専門家からの紹介・推薦を受け、必ず間に保証人を立てて契約書を交わす。運転免許証、身分証明書は必ずコピーを取っておく。また、住居にも同行して所在地や同居人を確認する。いったん正式に採用した人を退職させるのは困難であるので、6ヶ月程度の見習い期間をもうけるのが良い。運転手の希望者は多いので、よく吟味すること。技術よりも性格を重視したほうが良い。

(2) 日常管理

車は所有者が管理する。洗車は任せても、日常の点検は自らが行ったほうがよい。運転手に単独で用事に行かせる場合も生ずるが、その時の運転ぶりも知人に依頼して調べておくと良い。

(3) 教育指導

運転ができることを前提とせず、できない者を教育するつもりでいる方がよい。特に安全面の教育を怠らないようにしたい。特に右左折時の巻き込み防止確認は徹底したい。また、主人や客の乗降時のドアの開閉、待機、清掃など、運転以外の仕事については認識が甘いため、根気強く教育する必要がある。

(4) その他の留意点

運転手は時間外勤務が多くなるので、雇用契約の際に食事代を含め、時間外勤務手当も取り決めたほうがよい。燃料入れは信頼できる者であれば現金を渡して、領収書を後で受け取るのもよいが、あらかじめ燃料チケット(1、2、5、10リットル)を購入し、それを運転手に渡すのも方法である。燃料チケットは市内のガソリンスタンドで購入する。

6-3 メイド/サーバント

(1) 仕事の種類と人数

メイドは、a) 料理及び買い出し、b) 洗濯、清掃、子供の遊び相手等の2人のメイドを雇う例が多い。b)の方が概して給料は安い(半額程度)。単身赴任者の場合は

1人のメイドに a)、 b) を兼任させても構わない。留守中に友人などを家に入れたりすることは厳重に禁止する。

(2) 雇 用

運転手の項に準ずる。

(3) 日常管理

メイド、サーバントは屋内従事のため、家庭内の細かな点を知ることができる。彼女らの反発心を買うと収拾がつかなくなるので、気持ちの把握に努めたい。また、ラオ人は人前で叱られることを最大の侮辱と感ずるため、注意は他人のいないところでするよう配慮すること。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇 用

運転手の項に準ずる。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

ビエンチャン市バス公社が当国随一の公共交通機関である（日本の無償資金協力で事務所・機材とも整備された）。市内線 18 本、中・遠距離線 32 本を無休で運転している。運行時間は 5:30～18:00 頃である。遠くは北のルアンプラバン、南のサバナケット、パクセーとも結んでおり、各地域の交流と活性化に大いに寄与している。

人力車が庶民の足であったが、最近では減ってきた。オートバイを改造した三輪車（トウクトウク）、少し大きい三輪車（ジャンボ）がこれに取って代わっている。タクシーは日本の中古車が若干走っているが一般的ではない。また、トラックを改造した私営バスもある。公営バスを除いて料金は全て交渉制である。市内をジャンボで移動する場合、距離にもよるが 1 回 300～500kip である。

調査団は、運転手付きのレンタカーを借り上げることとなる（40～100 ドル/1 日）。長期専門家も着任後、私用車が入手できるまではこのレンタカーを月極で借りることとなる（月極で 800 ドル程度）。短期専門家の場合、配属先の提供が原則であるが、三輪車をその都度交渉して乗る例が多い。

長距離バスは 1 日 2 便運行している。市内・ローカルバスは多数発着している。地方への移動は、空路が主である。最近になってアジア開発銀行（ADB）等の支援によって幹線道路が整備されてきており、車両で行ける所も増えてきている。道路は簡易アスファルトで、幹線道路を外れると 4 輪駆動車でも走行が困難なところが多い。また雨期には、幹線道路も河川の増水により寸断されることが多い。

従来は地方に出かける際に所属官庁の許可証が必要であったが、1994 年 4 月から不要となった。道路も整備され、今ではビエンチャンの北 90 km にあるナムグムダムまでも快適なドライブが楽しめるようになった。しかし、道路に大きな穴があいていたり、牛などの家畜が飛び出してきたり、道路の真ん中に寝そべっていたりする。日本では考えられない事故もしばしば起きるので、単独で出かけることは避けた方が無難である。

一部、治安の悪い地域があるので、陸路移動に当たっては、事務所・C/P 等の意見を聞いてから出かける必要がある。

当地に鉄道はない。

(2) 自家用車を利用する場合

当国は右側通行であり、それに慣れる必要がある。左ハンドル車のみ輸入許可されている。セダンタイプの乗用車は道路事情からビエンチャン市内と一部近郊のみに行動が制限される。また、時々検問が行われているので免許証、車両登録証等必要な書類は必ず携行する必要がある。

(3) レンタカーなどを利用する場合

ホテルや自動車店がレンタカーを保有しており、専門のレンタカー店もある（セッターレンタカー 電話：214257 など）。ビエンチャン市内は運転手、ガソリン代込みで 1 日 40～100 ドルである。10～20 人くらいの観光、調査にはビエンチャンバス公社（電話：312262、314570、216507）のレンタルバスが便利である。

(4) 道路地図

当国に道路地図と呼べるものはない。似たようなものがあるが、あてにならない。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

免許証（国際免許証、または日本の免許証を現地の免許証に書き換えたもの）、車両登録証、保険加入証等は交通事故に備えて常時携帯すること。ビエンチャン市内は車両、バイク、オート三輪、人力車、自転車、歩行者が混在しており、交通法規は守られていないので、接触事故が非常に多い。特に夜間のオートバイ、自転車は無灯火のため見えにくく、自分では運転しないほうが良い。

万一、事故を起こした場合は、警察（電話 1 9 1）に連絡するとともに、負傷者がいる場合は病院（電話 1 9 5）に依頼するか、インターナショナルクリニック等へ搬送する。やじ馬から暴行を受けるようなことはない。当国では警察官が来る前に事故車両を移動させてはならない。事故発生直後の状態を保持するよう義務づけられている。警察には現場検証を依頼し、事故証明書を発行してもらう。これをもとに保険会社に双方の損害の補償を請求することになるが、ほとんどの場合、当事者間の話し合いで解決を図っている。この場合、経済的な事情から外国人が補償を負担するのが通例である。何よりもまず、事故を起こさないように心掛けるのが先決である。

(2) 救急病院

マホソット病院に附属したインターナショナルクリニックが救急病院になっている。創傷処理等の簡単な処置、短期間の入院は可能である。しかし、高度な検査・治療が必要な場合はタイに行く例が多い。緊急の場合に備えて常にパスポートの所在を明らかにしておくこと。身分証明書、緊急連絡先は常に身につけておく。また、滞在ビザの有効期限に留意する。

(3) 盗難

路上に長く駐車する際は、店先などからよく見える位置に止めるように心掛け、人目につかないところはできるだけ避ける。いちばん安心なのは運転手を待機させることである。また、車両そのものの盗難もさることながら、4 駆の切り替え装置やタイヤ、ドアミラーなど部品盗難も多い。車内にアタッシュケース等目立つ物は置かない配慮が必要。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

右側通行である。市内は一方通行の道路が多い。また、駐車禁止もあり、これらの交通法規に違反すると罰金を取られることがある。特に、間違いやすい一方通行路には、警官が待ちかまえて徴収していることがある。

市内には、フランスから供与された信号機が 10 ケ所ある。日本で見かける型の信号機も数カ所ある。信号機の無い交差点ではお互いの暗黙の了解で、止まったり突っ切ったりするので、コツを呑み込むまでは戸惑うことが多い。

(2) 対処方法

交通違反で警官に停止を命じられた場合は、素直に従う。その場で謝罪し罰金を支払えば放免される。例えば一方通行路を逆走した場合は、2,000kip を徴収される。罰

金の額は犯した行為とその場の警官の裁量にもよるが2,000～5,000kipである。納得できない場合は反則キップをもらい、後日警察署へ行くこともできる。この場合罰金は大幅に安くなることもある。信号や一方通行路では木陰に隠れての取り締まりがよく行われている。

7-4 車の修理

(1) 部品

市内を走行している車の80%は日本製である。その中でも特に三菱、トヨタが目につく。両社とも市内に販売代理店、修理工場を擁し、特殊な部品でなければ難なく調達できる。市内で手に入らないものはタイから取り寄せることができる。

(2) 修理工場

通常の定期点検、部品交換ならば難なくできる。市内には板金工場、塗装工場、修理工場がいくつもある。特にスリサバンボン像近くのサムセンタイ通りには多くの修理工場、塗装工場が軒を並べている。技術レベルも遜色なく、安価で仕上がる。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

1994 年から日本の無償資金協力で供与された、最新式の電子式交換機が主要各都市で運用を開始しているため、通話事情は以前より格段に改善された。電話機の新設は地域にもよるが、申請からおよそ1ヶ月前後で設置可能である。またピエンチャン市内では携帯電話も普及している。日本から持ち込んだ電話機は特殊な機能（留守番電話などコンセントからの電源を必要とするもの）を持つもの以外はそのまま利用できる。コンセントからの電源が必要な電話機には220 Vから100 Vに変換するトランスが必要となる。また、1996 年から、ヴィエンチャン市内および近郊にテレフォンカード式の公衆電話が設置された。

(2) 国内電話

主要各都市（ルアンプラバン、パクサン、ピエンチャン、タケク、サバナケット、パクセーの市街地及びルアンナムター、ウドムサイの電話局）間はオペレータを経由することなく結ばれている。市内通話は度数換算であるが主要都市間は遠距離通話料金が適用される。ファクシミリも同様である。

(3) 国際電話

主要各都市（上記）から世界各国にダイアル直通電話が可能である。発信時には国別番号（例えば日本は81番）の前に"00"をつけるだけである。例えば東京に掛ける場合は、「0081-3-XXXX-XXXX」（00+国番号81+市外局番3+市内番号。東京の市外局番03の0は必要ない）。オペレーター経由の場合は"170"をダイアルする。オペレーターは英語が話せる。回線は十分確保されており問題なくつながる。料金はダイアル直通の場合は1分毎で加算され、オペレーター経由の場合は基本が3分、その後1分毎で料金が加算される。ダイアル直通の場合、タイが1分間520kip、日本が1分間2,300kipである（1996年12月現在）。ファクシミリも同様である。コレクトコールはできない。

8-2 電 信

(1) ファクシミリ

一般回線から可能であるが、ナンバー国際電話局でも受け付けている。ファクシミリは当地で日本製、韓国製などが出回っている。日本から持ち込んだファクシミリも使えるが、220 Vを100 Vに変換するトランスが必要となる。

(2) テレックス

"170"をダイアルすることによりオペレーター経由で24時間可能である。また、ナンバー国際電話局においても24時間可能である。

(3) 電 報

テレックスの項と同様。

(4) インターネット

該当情報なし。

8-3 郵便

(1) 一般事情

中央郵便局はタラート・サオ（旧朝市）の隣、ランサン通りとクービエン通りのコーナーにある。（電話：216425、小包係…216412）。郵便事情は比較的よく、日本からの航空小包は5日で届くこともある。通常郵便物はJICA事務所または郵便局内の私書箱経由で受け取ることができる。郵便局の私書箱は身分証明書（パスポートなど）を持参し、申し込み用紙に記入すれば容易に手に入る。但し、係員が英語を理解しない上、申し込み用紙もラオ語で表記されているため、言葉に自信がなければカウンターパート等と一緒にいった方がよい。使用料は半年で約10,000kipである。

当地から日本に郵便物を送る場合もだいたい5～7日程度で着く。EMSサービスも郵便局内で行っている。これを利用すると3～4日で日本に着く上、事故の恐れがかなり軽減される。日本への料金は、500gまで25ドル、1,000gまで30ドル、あとは500g増えるごとに5ドル増え、20kgまで扱っている。

また、市内にはDHLサービスを扱う店がある（電話 216830、214868）。基本料金は55ドルと高いが2～3日で日本に届く。

日本からの小包は通知票と身分証明書（パスポートなど）をもって郵便局の小包窓口に赴き、書類にサインをして受け取る。手数料を重量に応じて（1,350kip以上、税200kip）支払えば、ほとんどの場合、通関検査なしで受け取ることができる。

(2) 課税

私的な小包には課税される。専門家に対しては免税特権が適用されるが、窓口の係員が理解していないことが多く、カウンターパートを通じていった方がよい。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

「ビエンチャンマイ (ラオ語)」、「パサソン (ラオ語)」、「K P L (英・仏)」の3種がある。「ヴィエンチャン・マイ (=新ヴィエンチャン)」は情報文化省管轄の国営新聞社が発行しており、一般市民の情報源として重要である。「パサーソン (=人民)」は人民革命党の機関紙のため、政治、経済などの記事が中心である。K P Lも国営通信社の発行だが、唯一英・仏語で発行される日刊紙である。配達は場所により可能。料金は条件によって違ってくるが、数千 kip 程度でいずれも支払いは窓口払いである。

(2) 本邦日刊紙

バンコクからO C Sが郵便局経由で送付してくれる。数日分まとめて届けられる。早いもので4日、遅いもので1週間程度の遅れとなる。

(3) 欧米紙

該当情報なし。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラオス全土に国営ラジオ局は8局あり、そのうちビエンチャン市内に「ラオナショナルラジオ」と「ビエンチャンラジオ」の2局ある。いずれの局も連続放送ではなく、特定の時間だけ間欠的に放送している。タイ側からの放送も聴取できる。タイの方は、連続して放送しているのでビエンチャン市民はこちらを中心に聞いているようだ。タイからはFM放送も良好な状態で聴取でき、人気がある。

(2) ラジオジャパン

短波ラジオがあればラジオジャパンを受信することができる。ラジオジャパンは、同時にいくつかの周波数で放送しているため、最も良い状態で受信できる周波数を選択する。日中は混信も少なく受信状態が良い。夕方から早朝にかけては混信がやや多く、聞き取りにくい場合がある。

放送内容はニュースなどを日本語と英語で1時間毎に交互に繰り返して放送しており、NHKラジオ第一放送をそのまま放送している時間帯もある。周波数表およびプログラムがNHKから随時J I C A事務所に送られてくる。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

B B C、V O Aなど主要な短波放送は受信可能である。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

現在、ビエンチャン市内に国営「ラオナショナルテレビ」と「ラオテレビC H 3」の2局がある。それぞれ9 c hと3 c hである。モノラル放送のみでシステムはP A L方式である。「ラオナショナルテレビ」は朝1時間、夕方に3時間ほど放送し、「ラオテレビ3 C H」は夕方に4時間ほど放送している。(1995年9月現在)

タイからのTV放送も数局受信できる。こちらの方は内容に変化がある上、放送時間帯も長いので、ラオ人は好んで見ている。タイ語とラオ語は近縁関係にあり、ほぼ

理解できるため、政府の意向とは関わり無く、庶民はタイの放送を楽しんでいる。

(2) テレビ受信

日本のNTSC方式のテレビでは受信できないため受像機を持参する場合はPAL、NTSCの両方式が受信できるマルチシステムがよい。電源が220Vであることに注意する。なお、現地で手頃なTVを購入することもできる。

また、パラボラアンテナとチューナーを設置すれば多くの衛星放送を見ることができ、代表的なチャンネルとしてNHK国際放送、スターTVやCNNなどがある。パラボラは良好な画質を得るためには2m程度の大きさが必要になるため、個人で工事するのは難しい。ピエンチャン市内にパラボラ設置業者がおり、ブースターとアンテナ代、工事費込みで600～1,800ドルで出来る。

NHKも1995年4月から海外向けに放送をしておりラオスでも受信できる。放映時間は午前と午後数時間ずつで、連続ではない。海外放送局への配信が目的であり、ニュース番組が主。子供向け番組はない。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

ビデオの普及に伴って廃れ、1995年現在営業しているところは2軒のみである。

映画館名：ボワサワン館

場 所：コウンボウロン通りシーホーム

映画館名：オデオン館（ビエンチャンシアター）

場 所：タラレーン隣

外国の映画がラオス語、またはタイ語の吹き替えで1日3回上映されている。価格は600～900kipで席によって異なる。

(2) 劇 場

演劇専用の劇場はないが、ビエンチャンシアター（前項参照）で演劇が催されることがある。また、トンカンカム通りに旧ソ連の援助で建てられたサーカス場がある。

催しは頻繁には行われないため、チケットの購入は難しい。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

教科書や絵本、歴史小説などが販売されている。その他、タイから雑誌や漫画などが輸入販売されている。オーストラリア大使館刊行の「ビエンチャン・ガイド」（1部12\$）は毎年改訂されており、便利な情報が満載されている。

写真集等で良い物が始まった。週刊誌として「Sunday Pasason News Paper（サンデーパサソンニュースペーパー）」がラオス語で、「Vientiane Times（ビエンチャン・タイムス）」が英語で発行されている。ミニマーケットや空港等のロビー等で購入できる。料金は1部1ドル弱である。「Vientiane Times（週2回発行）」は配達も行っており半年、1年払い契約ができる。契約料は1996年11月現在、半年で25,300kip（約25ドル）、1年では50,500kip（50ドル）である。

簡易製本は安価で、市内の随所で製作することができる。

(2) 書 店

サムセンタイ通りやセタティラート通りに本の数は少ないものの書店がある。外国人を対象とした書店はタイ航空オフィスの隣に「レインツリー書店」がある。また、タイの雑誌類はタラート・サオの中央棟にある書店が比較的種類が多い。英語のペーパーバックスの古本を扱う店もある。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

外国人を対象とした英・仏・ラオス語の学校がある。

(2) 家庭教師

現在のところ日本語でラオス語を教えられる家庭教師はいない。英語またはフランス語での教育となる。家庭教師の雇用についてはJICA事務所に相談しても良い。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

タイに奪い取られたエメラルドブツダが、かつてビエンチャンに安置されていた時

代のお寺である“ワットブラケオ”が、現在では博物館になっている。片言の日本語ができる案内人がいる。サムセンタイ通りには革命博物館があり、ラオスの現代史が理解できる。寺院は市内随所に建立されており、セタティラート通りに大きなものはいくつかある。催し物は外交団等が開催するものが希にある。場所はビエンチャンシアターかサーカス場である。

国際婦人協会があり、独自のチャリティー活動を行っている。また、国際歌唱クラブもあり、練習会・コンサートを行っている。日本人女性も参加している。

メコン河で10月に開催されるボートレース、11月のタットルアン寺院の祭り、5～6月に市近郊で行われるロケット祭りなど、ラオス特有の催し物が多種多様にある。カウンターパートらを通じて地方の祭りに参加する事は楽しみの一つでもある。ヴィエンチャンのボートレースには、2年連続して在留邦人会が出挺し、祭りに花を添えている。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動内容

革命以降、実体のなかった在留邦人会が、95年に再結成された。1997年3月現在約250名が参加している。活動内容は定期総会、クリスマス会の開催、10月のボートレース参加、11月のタットルアン祭りへの屋台の出店、緊急連絡網整備などがある。ラオ日友好協会、日ラオ友好議員連盟がそれぞれあるが、あまり活発ではない。

(3) その他の文化活動、文化施設

外交団等の音楽愛好家による楽団やコーラスグループへの参加案内が、外国人が利用するスーパー等の店先に掲示されている。また日本からのNGO、語学留学生や専門家、協力隊員の有志による「ラオス研究会」が毎月第4土曜日の午後3時より2時間行われている。講師は日本人であったり、ラオス人であったりその時による。テーマは多種多様でラオスの歴史、言語、経済、現在事情など。参加費は300kip、飛び入り参加できる。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

写真現像はラオスの数少ないサービス業であり、活発に行われている。日本製（フジ・コニカ）やコダック、アグファのフィルムは常時入手できる。フィルム1本3,500kip、写真現像は普通サイズ1枚100kip程度である。現像は早いところでは2時間で仕上がり、特別料金は取られない。一般には午前中に頼むと午後にはできあがっている。カメラ用の電池は、特殊な物を除けば多くの機種に対応する製品が揃っている。フィルターやレンズなども少しはある。店頭になくは注文すればタイから取り寄せることができる。なお、一般に使われているパノラマ撮影は、当地では普通に現像されてしまう。スライド写真も現像できるが、スライドであることを申し出ないと、ネガ現像される恐れがある。ネガフィルムからスライドフィルムへの変換は、いったんネガをプリントし、それを室内でスライド撮影するため、時間がかかり画質も劣る。

(2) ビデオセット

当地やタイで市販されているビデオテープの多くはVHSのPAL方式であるため、ビデオデッキは日本製のビデオも見ることができるマルチシステム用の機種が好ましい。マルチ方式デッキは当地で数多く売られているが、3倍速の見られるデッキ

は高価である。日本で3倍速録画しているものは、機種を選ばないと見る事が出来ないの注意すること。

ビデオ貸出店は市内に多数あり、中国、香港、インド、アメリカ映画等のタイ語吹き替え版が借りられる。全てVHSのPALである。貸出料金はメンバーでは1本1週間で300~400kipである。タイで検閲を受けているため多少の露出でもボカシが入っている。また、日本からのビデオテープの持ち込みは建前上、検閲の対象になっているので注意を要する。

- (3) 各種テープ
該当情報なし。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

- (1) 音楽会、コンサート

西欧音楽を聴く機会は外交団等が開催するもの以外はない。ピアノとギターの生演奏は地理局横の「パラソルプラン」で夕方7時以降行われており、カントリーナンバーやビートルズ等をリクエストに応じて弾いてもらえる。

- (2) コーラス、演奏グループ
該当情報なし。

- (3) ピアノなど

ピアノは市販されていない。タイからの取り寄せとなる。調律師は市内に1~2名いるとのことである。当地では雨期と乾期の湿度差が大きいので、ピアノの維持は大変である。

- (4) CD、レコードなど

レコードは売られていない。音楽テープはタイ製品がでまわっている。欧米音楽はタイ、香港、台湾製の海賊版が出回っている。価格は1本500~1,000kipである。中には粗悪品があるので試聴してから買うと良い。

最近になってCDもでまわるようになり、CDプレイヤーも市販されている。しかし、いずれも高価である。

- (5) 民族楽器

民族楽器はタイと同じ系統の物が多い。半音階のない5音階であり、楽器は木琴、横ハープ、笙、1弦胡、たて笛、横笛、打楽器などである。ランサンホテル斜め向かいの店「サロンサイ」やアヌサワリ（凱旋門）近くのラオレジデンスでは民族楽器の演奏と踊りのショーが毎晩7時から鑑賞できる。

また、民族楽器や踊りの学校もあり外国人も習うことができる。

- (6) その他の楽器
該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

- (1) 手芸

手工芸品は絹・木綿の織物、刺繍、木彫り等がある。ラオ人女性がかいている巻スカート「シン」やタペストリー、クッションカバー、テーブルクロスがある。また山岳少数民族のモン族のパッチワークや刺繍、タペストリー、エプロン、クッションカバーなどもある。織物は日本の伝統的な機織に良く似ている。1セット100ドルくら

いで織機を近郊の村から購入できるので家屋に設置して機織に挑戦してみるのもおもしろい。

(2) 絵画、美術工芸

絵画は少ない。アメリカ大使館近くのタットダム（黒い塔）横に1軒、ノケオ・コウマン通りに1軒、ギャラリーがある。旧南ベトナムの画家の作品など意外な掘出し物が展示されている。美術工芸品は少ないが、サムセンタイ通りやセタティラート通りの土産物店などに置いてある。骨董品はセタティラート通りのミーサイ寺院横の角の店がおもしろい。

10-8 趣味

(1) 園芸

タイ産の花や野菜の種子が売られている。日本（タキイ、サカタ）の植物の種も売られている。

(2) 釣り

市内には釣具店がある。タラート・サオ内にもある。ラオ人にとって釣りは趣味というよりは生活のためであり、蛋白質の摂取は魚からとる量が圧倒的である。近郊には養魚場があり、釣りと食事の場を提供している。コイ、テラピア、ナマズの類が釣れる。ナムダムでは船を借りて釣りも楽しめる。溪流釣りは必ず地元のガイドと一緒にいくこと。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

ビリヤードの一種であるスヌーカーや、ディスコが流行しており、市内随所で遊技場やディスコを見かける。子供にはファミコンが流行している。トランプでの賭事も盛んであるが禁止されているので注意すること。邦人間では麻雀（公には禁止）が行われている。ブリッジ同好会があり、新聞で同好の士を募っている。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

タドゥア通りを市内から車で30分ほど走ると左側のタバコ工場の中に555ガーデンがある。園内には小さな動物園、池、公園があり、まる1日楽しむことができる。また、タドゥア通りをさらに下った友好橋近くに、各地の民家を集めた公園があり、珍しい動物が集められている。タットルアン手前に遊園地があり入場無料。乗り物は有料で、電車、観覧車など数種類あり、本物のゾウに乗ることもできる。

タゴン街道を50～60分ほど北上した右手に動物園が1つある。ここでもゾウに乗ることができ、希少動物を観察できる。

(3) ディスコ、カラオケ

市内各所にディスコを兼ねたナイトクラブがある。日本人が利用する主な店は次のとおり。ラオス独特のテンポの音楽が多い。

店名：マリーナ

所在地：ルアンプラバン通り

店名：ブルースター

所在地：ルアンプラバン通り

店名：ドックマイデー（紅花）

所在地：ランサン通り

店名：ランサンホテルのクラブ

所在地：ファーム通り

店名：レインボークラブ

所在地：ルアン普拉バン通り

いずれの店も、女性がお酒や伝統的なランボンダンスの相手をしてくれるが、ラオスは未だ社会主義国であることを忘れないで行動すること。以前、外国人がナイトクラブの女性と派手に遊びすぎたため国外追放になった例がある。

日本大使公邸の先には、唯一日本人相手のカラオケ店「美人パブ」がある。日本語のわかるママがいる。基本的にカラオケは（映像が）風紀を乱すとされ、禁止されているがディスコなどで頼めば唄うことができる。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

市内にはビエンチャン・ゴルフコースとサンティスック・ランサンゴルフクラブの2ヶ所のゴルフクラブがある。邦人間ではサンティスック・ランサンゴルフクラブ（住所：024 Fagum Road、友好橋近く。TEL/FAX：213622）の人気の高い。コースは9ホールしかないが、ドライバーも使える距離がある。やや狭いのが難点であるがトリッキーなコースのため飽きない。コースは週末には多くの邦人が利用し、社交場となっている。誰でも自由に利用でき、料金は1ラウンド（9ホール）土・日曜日グリーンフィー7,500kip、キャディーフィー2,000kip、平日グリーンフィー5,500kip、キャディーフィー2,000kipである。メンバーも募集しており、6ヶ月～5年間のドルの前払い方式である。貸しクラブは1～2セットしかなく利用料は1回200バーツである。中央には打ち放し場があり、ボールをセットする係がついて30球2,000kipである。邦人同士で毎月定例ゴルフ大会を開催しており大使館員、ラオス駐在民間企業社員、専門家等が参加している。

プレイする上で留意すべき点はラフ等に毒ヘビが潜んでいることがあり、球を打ち込んだ場合、ゴルフクラブで足元を確認しながら歩く慎重さが必要である。また、蟻が這いあがってくることがあるので、靴下でズボンの裾を巻き込むことを勧めたい。

当地のゴルフ場には多くのラオス高官が来ており、日本人として恥ずかしくない振る舞いが求められる。キャディーは不慣れな人が多いため、コースの状況を聞いたりクラブの選択を任せるようなことはできない。また、キャディーがOKを出したからといって周囲を確認せずに球を打たないこと。必ず自分の目で確かめたほうがよい。

クラブは日本から持参した方がよい。

(2) テニス

テニスコートはランサンホテル、ノボテルホテルと、ノングボン通りに近い所（パーパオレストラン併設、サイセタランゲージセンター前）に1面ずつコートがあり、個人レッスンも受けられる。5\$ / 1時間。また、国立競技場横の市営テニスクラブにはコートが3面ある。ラオス人高官がよく利用している。

(3) 水泳

「オーストラリアン・クラブ」の会員になればプールが利用できる。この他、市内

のホテルにプールを備えたところがあり、利用できる。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

協力隊員が中心となり、毎週土曜日の午後、アメリカ大使公邸横のグラウンドでソフトボールが行われている。参加者は新聞公募であるため国際色豊かである。

協力隊員に柔道師範がいるため、青年同盟集会場で毎日4時半から稽古を行っている。ラオス人の間で籐のボールを使った「セパタクロー」やサッカーが盛んである。バレーボールも行われている。テコンドーは国立競技場内でタイ人の指導員が来て練習を行っている。早朝にはジョギング姿も見られる。スポーツ用具は市内で売られているが質は良くない。ウェアやスポーツシューズも同様である。

(5) スポーツクラブなど

クラブ名：オーストラリアン・クラブ

施設：プール、スカッシュ、エアロビクス、テニス。

特記事項：レストランが併設されており、サンドイッチ等が食べられる。

クラブ名：ノボテルホテル

施設：プール、器械ジム、テニスコート

クラブ名：ドックマイデン（紅花）ホテル

施設：プール、器械ジム、タイ式マッサージ

クラブ名：ランサンホテル

施設：プール、器械ジム、テニスコート、ビリヤード

クラブ名：ソッパルアンスイミングプール

施設：プール

10-11 子供の遊び

子供の遊び場は少ない。ランサンホテル斜め前、「サロンサイ」レストラン横に公園があり、ブランコやシーソー、砂場などがある（入場料 50kip）。子供より学生が休み時間の憩いの場としてよく利用している。また、タラート・サオ内に子供向けの乗り物園がある。玩具はタラート・サオなどで売られているが、三輪車などの質はあまりよくなく、壊れやすい。

乾期にはメコン川の水量が減り、川幅の半分以上が干し上がって砂丘となるため、そこで遊び回ることが出来る。また、川岸や中州の水たまりで水遊びも出来る。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

主な銀行は次のとおりである。

銀行名：コマース・エクステリア（外国貿易銀行）

電 話：213200～4

特記事項：JICA 事務所が公金口座を持つほか、専門家等の口座開設者が多い。

銀行名：ジョイント・デベロップメント

電 話：213530～6

銀行名：ビエンチャンコマーシャル（永珍商業銀行）

電 話：222700～4

銀行名：ビエンチャンパニット

電 話：213510～3

銀行名：タイパニット

電 話：213500～2

銀行名：タイミリタリー

電 話：217174

銀行名：サイアム・コマーシャル

電 話：213501

銀行名：セタティラート

電 話：213400～4

特記事項：政府系機関が口座を開設している。

銀行名：ナコンルアン

電 話：213300～4

銀行名：ラオデベロップメント

電 話：213100～10

銀行名：クルンシアユタヤ

電 話：213520～1

銀行名：クルンタイ

電 話：213560～2

銀行名：カシコネタイ（タイ農民銀行）

電 話：213550～2

特記事項：タイとの決済のやり取りはない。タイ国内の当銀行に預金があっても、
ヴィエンチャン支店で引き出すことは出来ない。

市内の銀行のほとんどはタイ系銀行の支店、もしくはタイとラオスの合同銀行である。外国人でも口座の開設は自由に行える。口座はドル、キップ、パーツ口座の3種類が用意されており、それぞれ利率が異なる。

1997年2月現在、コマース・エクステリアでは次のような利率になっている。

<ドル口座>

普通口座：4%

定期口座：3ヶ月 5%、6ヶ月 6%、12ヶ月 8%

<パーツ口座>

普通口座：7%

定期口座：3ヶ月 8%、6ヶ月 9%、12ヶ月 11%

<キップ口座>

普通口座：16%

定期口座：3ヶ月 17%、6ヶ月 18%、12ヶ月 20%

ラオ人にはパーツ口座の人気が高い。外国人はドル口座を利用しており、最低預け入れ価格は100ドル。日本から直接ビエンチャン市内の口座に送金することも、その逆も可能である。この場合手数料として0.75～2%を取られる。手数料は交渉次第で引き下げも可能。ドルの引き下ろしも問題なくできるが、大量の紙幣が必要な場合(例えば100ドル札で5,000ドルなどの場合)は、すぐには引き出せないこともある。引き出した際には必ずその場で確認する必要がある。汚い札やセロテープでとめてあるような札は返す。また、通帳も一度検算したほうがよい。口座の閉鎖は全額引き出した後、閉鎖する旨を告げれば滞りなく行える。

11-2 コンピュータ

パソコン販売店は市内各所にある。売られている製品はIBMコンパチ機が主で台湾、タイ製が主力となっている。CPUはインテルのペンティアムが使われているなど機能は日本の最新機と変わらない。プリンターはエプソンやキヤノンが海外で生産したレーザープリンタが主力。その他にはHD、ラムボード、3.5インチFDD(2ドライブ)、ディスプレイ、マウスなどの周辺機器が売られている。当国のFDは3.5インチ2HDが標準である。キーボードは英語、ラオ語両方が入力できるようになっている。CD-ROMは見当らない。

そのほかにUPS(無停電電源装置)が必須。長期間の停電はないが、瞬間的停電は日常茶飯事であり、これがないと安心してパソコンを動かせない。

OSはウィンドウズ95、またはウィンドウズVer 3.1が使われており、ソフトは「Word」や「Excel」、「ロータス1.2.3」、「dBASE III、IV」などの代表的なもの他にラオ語ワープロソフトがある。これらのソフトは、パソコン購入時に販売店がインストールしてくれる。価格は上記パソコン本体(IBMコンパチ、インテル80486)にエプソンのレーザープリンター(EPL5200)、無停電電源装置(UPS 600W)、4MBのラム、240MBのHD、3.5インチFDD(2ドライブ)、14インチディスプレイ(1024 x 768)、マウス、キーボードの1式で約3,500～4,000ドルで購入できる。

修理は販売店でも可能であるが、ほとんどの場合は部品の取り替えが必要なため、タイ・シンガポールからの取り寄せとなり時間がかかる。購入の際は、修理のことを念頭に置いて店を選ぶとよい。空港へ向かうルアンプラバン通り沿いの国際協力・投資委員会横にある「Microtec(マイクロテック) 電話：213836」では修理を専門に受け付けてくれる。インクカートリッジやフロッピーディスクなどの消耗品も問題なく入手できる。日本からデスクトップタイプのパソコンを持ち込む場合、220V→100Vの電圧変換機を忘れないようにしたい。

11-3 美容院・理髪店

ラオ人の通う普通の美容院は冷房もなく、お湯も出ない。シャンプーは水で行う。カット 600kip～、セット 1,000kip～、パーマ 5,000kip～である。外国人が通う設備の整った美容院は市内に 3～4 軒あり、カット 250 バーツ（約 1,000 円）～、セット 300 バーツ（約 1,200 円）～、パーマ 500 バーツ（約 2,000 円）～である。

理髪店は衛生面は期待できない。設備の整った店ではカット&ひげ剃りで 800kip～である。

化粧品、洗顔石鹸などはあまり質の良い品がないので日本から持参したほうがよい。子供の理髪は散髪バサミを持参し、家庭で行ったほうがよい。

12. 観 光

12-1 地方旅行上の留意点

1994年4月より外国人の地方旅行は自由になった。地方の主要都市は国内航空路線で結ばれている。搭乗手続きに当たっては、旅券または身分証明書の提示が必須。主要都市近郊では治安の面でも問題がない。主な観光は山や高原、河、滝などの自然探索や地方都市の少数民族生活見学や寺院巡りである。主要都市のホテル以外では英語は通じない。このため、ラオ語に不安がある場合は通訳代わりのラオス人に同行してもらうとよい。また、一部地域では治安の面で問題があるので決して単独行動をしないようにする。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

ビエンチャン近郊ではナムグムダム（約2時間の行程）が手軽な観光地である。ここではとれたての魚を出すレストランや1時間10ドルの30人乗り屋形船、船上ホテルなどがあり、ビエンチャン市民の憩いの場になっている。

ナムグムダムに至る途中を右に折れて、20キロ程行ったところにある水牛の角山（プーカオクワイ）でピクニックするのも良い。滝を見ながらお弁当を食べるのも一興である。この山はかつては王国軍のゲリラ部隊の訓練所であり、激戦地として名高い。ナムグム川を30キロ程下った川沿いに、フランス人が開発したラオパーコーというリゾートがある。何もないが、静かに過ごしたい人にはお勧めである。宿泊施設もある。

ナムグムダム北のバンビエン（約3時間の行程）には鍾乳洞があり、日帰りまたは1泊ドライブには最適のコースになっている。

他の都市では、ラオスの京都と言われる旧王都ルアンプラバンには毎日3～4便の国内線が運航しており外国人用ホテルも多くある。ここではかつての王都の趣（旧王宮やゆかりの寺院）の見学、少数民族の暮らし振りの観察等が観光のポイントである。

この他には南部のパクセー付近のクメール時代の遺跡やメコン川唯一のコーンの滝、北部シェンクワン県にある、目的の解明されていない人間の背丈より大きな謎の巨大壺が観光のポイントである。ヴェトナム戦争時代に米軍が北爆を行った時の爆発のクレーターが転々と続く。現在も不発弾処理が開発の大きなネックとなっている。

いわゆる保養地はないが、シェンクワンを見おろす山の上のホテルや、シェンクワンからベトナム国境に向かった所にある温泉、中部ラクサオ近郊の温泉などがひなびた風情で趣がある。

ルアンプラバン、サバナケット、パクセー等の主要ホテルには電話で予約ができる。<ルアンプラバンのホテル>（電話の市外局番は071。料金はS…シングル、T…ツインのドル表示。税・サービス込み、以下同じ。）

ホテル名：プーヴァオ

電 話 ：212194

料 金 ：S 66, T 66

ホテル名：スヴァナヴォン

電 話 ：212200

料 金 ：S 50, T 55

ホテル名：ヴィラ・デラ・サンティ

電話：212267

料金：S 45, T 45

ホテル名：プーシー

電話：212192

料金：S 28, T 35~40

ホテル名：ムアンスア

電話：212263

料金：S 20, T 20

ホテル名：ニュールアン普拉バン

電話：212264

料金：S 30, T 30

ホテル名：ラマ

電話：212247

料金：S 5, T 7

<サバナケットのホテル> (電話の市外局番は 041)

ホテル名：ホンティップ

電話：212262

料金：S 22, T 22

ホテル名：ナンハイ

電話：212370~1

料金：S 18, T 30

ホテル名：ボンパスート

電話：212158

料金：S 25, T 25

ホテル名：ボンビライ

電話：212284

料金：S 8, T 12

ホテル名：サンティパーブ

電話：212177

料金：S 4, T 4

ホテル名：サヴァン・バーンハオ・シーラン

電話：212202

料金：S 8, T 10

<パクセーのホテル> (電話の市外局番は 031)

ホテル名：チャンパ・パレス

電話：212263

料金：S 40, T 56

ホテル名：パクセ

電話：212131

料 金 : S 9, T 10
ホテル名: ポンサヴァン

電 話 : 212842

料 金 : S 4, T 5

ホテル名: サラチャンパ

電 話 : 212273

料 金 : S 22

ホテル名: スックサムラン

電 話 : 212002

料 金 : S13, T 17

<タケクのホテル> (電話の市外局番は 051)

ホテル名: カムワン・シーサン

電 話 : 212216

料 金 : S 12

ホテル名: プードイ

電 話 : 212048

料 金 : T 12

ホテル名: シーコート

電 話 : 212225

料 金 : S 14, T 17

ホテル名: インター

電 話 : 212170

料 金 : S 6, T 11

そのほかの都市へは局止まりの電話で予約をするか直接赴くしかない。

<シェンクワンのホテル>

ホテル名: ポウパダン (山の上のホテル)

料 金 : S 45, T 50

ホテル名: ドック・カウン

料 金 : S 6, T 7

ホテル名: ムアンボン

料 金 : S 7, T 13

ホテル名: ハイヒン

料 金 : 該当情報なし。

ホテル名: バンハロン

料 金 : T 10

12-3 旅 行

(1) 自 動 車

当国での幹線道路はルアンプラバン-ヴィエンチャン-サケバナケット-パクセ
一間の国道 13 号線である。ただし、ルアンプラバン-ヴィエンチャン間のカーシー
付近では山賊が出るため、通行が制限されている。国道 13 号線からラクサオに至る

国道8号線は日本の機材援助によって良好な道路となった。国道13号線はアジア開発銀行の資金で舗装工事が行われており、近い将来、南はカンボジア国境から北はウドムサイまで全面舗装される予定である。この橋梁は日本の援助等によって軍事仮設橋から2車線幅のコンクリート橋に付け替えられ、かなり快適な自動車旅行が楽しめるようになっている。しかし、それ以外の道路は幹線と言えども未舗装であり、雨期にはどろどろ、乾期はもうもうたる土煙になる。ヴィエンチャン市内には道路標識や信号機があるが、地方道にはほとんどない。また、夜間は真っ暗で、いきなり人や水牛等の家畜がライトに照らし出されることがある。標識がない迂回路や道路に大きな穴が開いていることもあり、夜間の自動車旅行は絶対避けるべきである。

(2) バス

ヴィエンチャンバス公社が運行している長距離バスは、北のバンビエンまで166 kmと南のサバナケット経由〜パクセまでの750 kmで、毎日1往復である。バンビエンまでの片道所要時間は4時間、サバナケットまでは11時間、パクセまでは15時間を要する。料金はヴィエンチャンの北東タゴンまで250kip、サバナケットまで7,000kip、パクセまで11,000kipである。車両は日本の無償資金協力で供与されたもので空調はない。

(3) 鉄道

当国に鉄道はない。近い将来、タイのノンカイまで来ている路線が延長される計画がある。タイ側は友好橋までの工事を了している。

(4) 航空機

国際線は、1996年11月現在、バンコクに土曜以外は毎日2便飛んでいる。土曜日のみタイ航空が1便運行。シンガポール、クアラルンプール、ハノイ、ホーチミン、プノンペン、サイゴン、昆明、広州、チェンマイへ週1〜2便飛んでいる。また、友好橋を渡って、タイ国ウドンタニへ出てバンコクへ向かうことも出来る（毎日3便）。

国内便はルアンプラバンに毎日3〜4便あるほか、サイニャポリ、シェンクワン、サバナケット、パクセーは毎日結ばれている。ラクサオ、サムヌア、ヴィエンサイには週に数便飛んでいる。ウドムサイ、ルアンナムター、ポンサリーにはルアンプラバンで乗り継ぐ必要がある。主要都市へ飛ぶ機種は50人乗りのフランス製か中国製のプロペラ機。小都市や臨時便は17人乗りの小型プロペラ機（中国製）やヘリコプター（旧ソ連製）の場合もある。またシャンクワンを中心に北部の都市を結ぶ空路には複葉機も使用されている。

ヴィエンチャンからの所要時間はルアンプラバン50分、パクセーまで90分である。料金は外国人料金とラオス人料金の2通り設定されており、外国人料金はラオス人料金に比べ2〜3倍高くなっている。外国人の大人で片道ルアンプラバンまで46ドル、シェンクワン37ドル、サバナケット61ドル、パクセー95ドルである（1997年3月現在）。数人まとまればチャーターも行える。

機内サービスはキャンディーとジュースが出る。航空券はランサンホテルの左脇の道にあるラオ航空の国内線カウンターで購入できる。しかし、手作業で座席状況进行处理しており、出発前日の午後2時までにもう一度カウンターに出向いて確認する必要がある。また、帰りの便は全てオープンチケットであり、行った先の空港ですぐにリ

コンファームする必要がある。少ない機材でやりくりしているため、予定通りの時間に離発着することは稀である。飛行機での移動が含まれる日は他の予定を入れない等、余裕を持って行動する必要がある。

ラオ航空オフィス

住所：P.O.Box 4169, 2 Phangkham Rd., Vientiane

電話：国際線 212051～3（ワットタイ空港 212056）

国内線 212058（ワットタイ空港 212000）

(5) 河川の航行

ルアンプラバン及びサバナケットに船便があるが乾期と雨期の最盛期は著しく制限される。ルアンプラバンと北部のパックベンの間ではスピードボートで往来することもできる。ヘルメットとライフジャケットの着用を義務づけられ、スリル満点である。料金は1船借り上げで100\$である。

12-4 旅行代理店

ナンプー横にラオインターツーリズム社があるほか、各種エージェントが国内、国外旅行を扱っている。

会社名：インターラオ

電話：214232, 214832

会社名：ランサン

電話：215804, 212469

会社名：ラオ・ナショナル

電話：216671, 212013

会社名：ラオトラベルサービス

電話：216603～4

会社名：パタナケットプードイ

電話：214673, 216597

会社名：ラジャ

電話：213632～3

会社名：タットルアン

電話：215346, 215809

会社名：ピエンチャンパ

電話：314412, 312489

外国航空はタイ航空（電話:216143）がラオ航空の向いに事務所を構えているほか、カンボジア航空（電話：215085）、ベトナム航空（電話：216761）も営業している。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

ルアンプラバン、サバナケット、パクセー等へは電話で予約ができるが、その他の電話が通じない都市は直接赴くしかない。予約をしていなくても空室があれば泊めてもらえる。支払いはドル、パーツでも可能である。また、一部のホテルではクレジットカードも使える。ビザ、マスターなどを扱っているが、アメックスはあまり通用しない。カード利用時は5%程度のサービス料金を取られるので注意が必要。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

JICA 事務所が緊急時の連絡網を作成し、定期的に改訂している。変更があった場合は速やかに連絡しておくこと。緊急事態発生時にはこの連絡網が活用されることになるので、オフィスや自宅の電話近くに掲示しておくこと。また、緊急連絡時には必ずメモをとり正しく次の人に伝えるように努める。必ず復唱して、伝達内容を確認する。私見を交えない。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

情勢の不安なインドシナ地域にありながら、当国は他の近隣諸国に比べて比較的良好的な治安情勢にあるといえる。しかし、近年の経済開放政策の進展の結果、当国民の間にも金・物に対する欲求が強まり、徐々にではあるが治安が悪化している。特に最近では、バイクを使用した「ひったくり」事件が連続発生したり、一部のホテルではセーフティーボックスから多額の現金が盗まれる等の事件が発生している。

当国は、ASEANへの加入により、さらに人・物の流通が活発化し、治安の悪化が予想されるため、治安情勢の推移には注意を要する。

最近の邦人が被害にあった事件は次の通りである。

92年…… 乗物盗7、侵入盗6、暴行・傷害1、車上盗1、スリ・置引き0、計15件

93年…… 乗物盗8、侵入盗3、暴行・傷害1、車上盗0、スリ・置引き0、計12件

94年…… 乗物盗3、侵入盗1、暴行・傷害0、車上盗0、スリ・置引き1、計5件

95年…… 乗物盗3、侵入盗1、暴行・傷害0、車上盗1、スリ・置引き1、計6件

96年(9月まで) …… 乗物盗3、強盗1、侵入盗1、ホテル盗2、ひったくり1、計8件

最近の邦人に対する事例と教訓は次のとおりである。

<事件例1： 専門家宅侵入（忍び込み）>

1993年7月深夜、専門家夫妻の住む一戸建て住宅に、複数と思われる賊が侵入し、現金と電気製品を奪って逃走した。同夫妻は2階寝室にて就寝中であったため、翌朝午前6時に起きて初めて被害にあったことが分かった。賊は1階勝手口横のスライド式ガラス窓を外し、そこから勝手口のドアを開けて侵入しているが、1階の小窓から侵入を試みた形跡もあり、鉄棒及びスライド式ガラス窓が一部外されていた。また、同専門家は当日この家に引っ越してきたばかりであり、警備員等も後日雇用する予定であった。立地は一部空き地と接している所であった。

○教訓及び対策・措置

・当国は口コミ情報が早く、この専門家夫妻の引っ越しも事前に知られていたものと思われる。引っ越しした当日から警備員の雇用もしくは番犬の飼育が必要であった。

・住居を決める場合、事前に情報を収拾する必要があることは当然であり、敷地周辺の状況も観察する必要がある。

・賊の侵入経路となった勝手口ドアのかんぬきが掛けられていなかったため必ず二重三重のロックをしておく必要がある。

<事件例2： 専門家宅侵入（忍び込み）>

1994年8月深夜、専門家の住む一戸建て住宅に賊が侵入。テレビなどの電気製品を奪って逃走した。同専門家は、2階寝室にて就寝中であったため、翌朝4時頃起きて初めて被害に気がついた。賊は敷地裏の塀を乗り越え、1階裏の勝手口から侵入しており、表のガレージにいた警備員は一切気付いていなかった。

○教訓及び対策・措置

・警備員に居眠りするなど注意しても、なかなか改善はおぼつかない。こうした場合には番犬を配置して警備員と連携させるのも有力な防犯対策になる。

・この家の場合、塀が低く外から警備員の様子が容易に観察できることから、賊は日頃から状況を調べていたものと思われる。外から容易に中の様子が見えないよう工夫する必要がある。

<事件例3：邦人旅行者盗難被害（スリ）>

1995年2月午前10時頃、邦人旅行者が市内タラート・サオの国営マーケットの貴金属売り場を見学中、人混みの中で何者かによりショルダーバックに入れておいた財布をすられた。

○教訓及び対策・措置

・人混み等でショルダーバックなどは決して後に回さないように心掛ける。デイバックも底を切られて貴重品を取られている事例もあるので貴重品は必ず身につけておく必要がある。また、ウエストポーチもそこに貴重品があると宣伝している様なものであり、狙われやすい。

・財布に現金と旅券を一緒に入れたりせず必ず別々に持つようにする。

・常に持ち物等に気を配り、隙をみせないようにする。

<事件例4：一般在留邦人宅侵入盗（空き巣狙い）>

1995年7月に3日間、自宅を留守にしていた間に賊が侵入し、電気製品等を奪って逃げた。賊は2階寝室のエアコン設置用の小窓から侵入していた。被害にあった邦人は警備員等使用人を雇用せず、留守中の管理を近隣に依頼するなどしていなかった。

○教訓及び対策・措置

・信頼できる知人等に不在となる間の住居の点検を依頼し、夜間不在時でも必ず警戒灯等の照明をつけるようにする。

・信頼できる警備員を雇用する。

・休暇帰国等の留守の予定を可能な限り秘匿する。

<事件例5：邦人車両毀損被害（車上狙い）>

1995年7月午後10時45分頃、同人が市内のヘルスセンターから出てきて自家用車に乗ろうとした際、施錠されていないのに気がついた。不審に思い調べたところ後部ドアの小窓が割られ、車内が物色されていた。同人は当夜9時頃、同センターに入った。所定の駐車場には止めず数十メートル離れた路上に留めておいた。周辺には数台が同様に駐車していたが、帰る際には他の車両は1台もなかった。雨の日であった。

○教訓及び対策・措置

・同所は日頃から人通りも少なく閑散としている所であり、夜間にこのような場所へ出かけることは非常に危険である。夜間の不要の外出は極力控えるようにする。

・運転手を雇用している場合は問題がないが、そうでない場合はできるだけ警備員の

いる駐車場に車を止め、常に人目につくところを選定すべきである。

- ・雨の日はあまり人が出歩かないことと、雨音で犯行の音が消されることから賊が活動しやすいので注意を要する。

- ・賊が潜んでいることも考えられるので、異常に気付いたらすぐに周囲の人に応援を求め、複数で対処する。

- ・短時間といえども車内に貴重品を置かない。外部の目につかないようにする。

<事件例6：ホテルのセーフティーボックスからの現金盗難>

1996年6月にヴィエンチャン市内のホテルに宿泊していた邦人出張者が、チェックアウトしようとフロントのセーフティーボックスに預けた現金を確認したところ、密封したはずの封筒が破られ、現金800ドルが盗まれていた。

○教訓及び対策・措置

- ・同ホテルでは同様の窃盗事件が、確認されているだけで数件発生しており、被害総額も多額におよんでいる。当地へ赴任あるいは出張する際には、前任者もしくは関係者から情報を入手し、盗難被害にあう恐れのあるホテルへの宿泊は避けるべきである。また、前任者は後任者へその旨を説明し、安全なホテルを確保するべきである。

- ・これと同様の事件は発生頻度は少ないものの、ヴィエンチャン市内の幾つかのホテルで発生しているとの話がある。当国はクレジットカードやトラベラーズチェックが余り使用できないことも勘案し、現金の管理には特別の注意が必要である。

<事件例7：バイク使用のひったくり事件>

1996年10月の午後8時過ぎ、自転車車で帰宅途中の協力隊員が人通りの少ない道路に差しかけたところ、ライトを消したバイクに乗った2人組に、現金等が入ったバッグを前カゴからひたたくられた。現金以外は翌日、職場敷地内に投げ込まれていた。

○教訓及び対策・措置

- ・夜間の人通りの少ないところを、少人数で通行することは何らかの犯罪に遭う危険性が高く、出来るだけ複数での通行を心掛けるべきである。

- ・日中でも銀行の前や市場周辺で、バイクを使用したひったくり事件が発生しており、外出の際は華美な服装を避けると共に複数での行動を心掛けるべきである。

- ・同人はウォークマンを耳にしており、近寄ってきた気配を察することが出来なかった。外出時は常に緊張を保つ必要がある。

(2) 防犯対策

ラオスは新聞、ラジオ等で事件が報道されることはない。その分、口コミが発達しており、カウンターパートや使用人からの情報は貴重である。これを最大限活用出来るような普段からの付き合いが大切である。

a) 屋内での防犯対策

屋内での犯罪（強盗、空き巣、忍び込みなど）を防ぐには家屋自体の防犯設備を整備することと、使用人、隣人、大家との関係を良好に保つという2点に留意する。空き巣や忍び込みが多く発生している地域もあり、住宅を選ぶ際には前任者やカウンターパートなどと相談したほうがよい。また住宅周辺的环境、治安情勢や通勤、買物先へのルート of 安全確保にも留意する。できれば2本以上のルートがあれば望ましい。

b) 屋外での防犯対策

屋外での犯罪（ひったくり、置引き、スリ、恐喝など）を防ぐには、常に周囲への警戒を怠らないことである。ラオス人は性格が穏やかで、地域の連帯が保たれているため、いわゆる愚連隊やチンピラの類は少なく、喧嘩沙汰も少ない。しかし、夜間になると街灯が少なく、人通りも途絶えがちのため、出歩くことは避けた方がよい。

c) 生活上での防犯対策

訪問者にはすぐに扉を開けず、先ず身元を確認するよう使用人を教育する。独立家屋では門番を雇う必要がある。電気、水道の検針は、検針員が1軒1軒回って行っているが、これらの者も不用意に敷地内に入れることのない様、注意する。使用人に対しても隙を見せず、現金や貴重品を不用意に放置しないこと。またラオス人は人前で叱られることを嫌うので、このようなことをして恨みを買わないようにする。解雇の際にも当地の習慣に合わせて手当等を支給し、後からしつぺ返しを食うことのないようにする。長期休暇の際には大家やカウンターパートなど信頼できる人に時々点検してもらおうとよい。

(3) 被害時の心得

まず生命の安全を図ること。犯人が犯行におよぶ際の精神状態は決して尋常なものではなく、たとえ穏和な性格と言われるラオス人でも追跡や抵抗をすれば場合によっては凶行に及ぶ可能性がある。また犯人は、護身用のナイフなどの凶器を有していることが多い。「自分や家族の命より大切な物は無い」と考え「勇気ある断念」が必要な場合もある。このような場合はしっかりと犯人の人相や着衣、身体的特徴、逃走方向等をメモに取っておき、下記に連絡すること。但し、じろじろ見ることは控える。特に目を合わせることは良くない。

警察：電話 191。所轄署は、チャンタブリ…213907～8 シコッタボン…215590
シーサッタナ…412538, 212711、サイセッタ…412455～6

また、JICA 事務所、日本大使館へも連絡をする。

逆に当国官憲に身柄を拘束された場合は、先方に日本大使館へ通報してもらいたい旨を告げる。これを受けて大使館では必要な措置を取ることになる。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

市内の家屋の多くが煉瓦やコンクリート作りのため火災発生件数は少ない。1994年に仏前に供えた蠟燭が倒れて寺院の一部が火災になった。1995年にはタラートサオ近くの商店がタク足配線によって焼失した。市内には日本の無償資金協力で消防自動車が配備されているが、通報から10～20分以上たって到着するといわれている。

水害は市内では過去数回、メコン河の氾濫による被害に見舞われている。しかし現在ではかなり治水での対策がなされ、ここ数年は市内での洪水の被害はない。日本の洪水と違ってメコン河の洪水は徐々に水位が上がりあふれでるものであり、家財や人間の避難時間は十分ある。雨水による道路の一時的冠水は多く、注意を要する。また、雨期の初めの5月頃と雨期の終わりの9月頃には雷をともなった大雨があるので落雷により電気製品が被害にあうことがある。当地に地震はない。

(2) 防災対策

洪水などの大規模災害の際は「緊急連絡網」により JICA 事務所から情報・指示が

あるので、それに従って行動をとるようにする。当地の消防能力は日本ほど優れてはいないため、まず火を出さない努力をすることが肝要である。特に使用人にはアイロン、電熱器等の使用方法を確実に指導し、その管理を徹底することが大切である。

(3) 被災時の心得

万一火災等の被害にあった場合は、慌てることなく消防（電話：190）、大使館、知人等に連絡を取る。また、日頃から旅券、現金等の貴重品は常に持ち出せるようしておく。

緊急連絡先一覧（再掲）

- ・ 在ラオス日本大使館 …414400～3 (FAX:414406)
- ・ ラオス警察 緊急事態通報 …191
 - チャンタブリ警察署 …213907～8
 - シコッタボン警察署 …215590
 - シーサッタナ警察署 …412538,212711
 - サイセッタ警察署 …412455～6
- ・ ラオス消防
 - 火災通報 …190
 - 消防署 …212707
- ・ 救急車 …195

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入 国 時

(1) 空港施設概要

ワットタイ空港は小規模な空港であり、中で迷うことはない。タラップを下り、空港内のパスポートコントロール→荷物受取所→税関を通過して待合所に出る。税関で荷物を見られることは希であるが金属トランク、段ボール箱は開けるように求められる確率が高いのでなるべく避ける。避けがたい場合は古着や日用品等をつめ、電気製品等はいれないようにする。動植物検疫は、あることになっているが実施されていない。

(2) 入国手続書類

入国には査証が必要である。ラオ政府から発給される査証には、外交査証・公用査証以外に、ビジネス査証及び観光査証が発給されており、その取得に関しては次の通りである。

<ビジネス査証>

手続：1.申請者は必要書類を作成し、在京ラオス大使館で査証の申請を行なう。

2.在京ラオス大使館は書類を本国に送付し、国際協力・投資委員会・入国管理局・内務省・外務省の審査を受ける。

3.許可された場合には外務省から在京ラオス大使館へ査証発給手続がなされ、査証が発給される。

公用旅券で派遣される JICA 専門家も同様の査証を受ける。出発時の手続は JICA の指定する旅行代理店が代行する。この査証は有効期限が1ヶ月のみであるので、着任後直ちに、所属機関を通じて6ヶ月の長期滞在査証を申請する。また、任期中旅券を常に携帯するのは何かと不便であるので、同じく所属先で身分証明書を発給して貰い、常にこれを携帯する。

※ラオスに事務所がある企業等についてはカウンターパートとなる省庁、または外務省に対して、申請者の概略・入国目的を送付し査証の発給要請をする。これにより、ラオ側の手続約1週間、日本側手続約2日間の、約9日間で査証を取得する。

滞在許可期間：3ヶ月（手数料：20\$相当）

6ヶ月（手数料：40\$相当）

1年（手数料：80\$相当）

<観光査証>

手続：1.申請者は在京ラオス大使館で必要書類を持って申請する。

2.旅行社は申請者から必要な事項を聞き取り書類を作成し、ラオの旅行社へ送付する。

3.書類は国家観光局を經由し、外国投資委員会・入国管理局・内務省・外務省の審査を受け、許可が降りると在京ラオス大使館から査証の発給を受ける。

滞在許可期間：15日間（手数料：約2万円）

<ワットタイ空港・ラオタイ友好橋でのビジネス査証（簡易査証・ເບີເຈັບ）の取得>

※FAX で関係書類を送付してから発給承認の通知を受け取るまでの期間は概ね1週間と言われている。この手続は申請者の身分・入国目的が明らかで、当局が緊急性と必要性を認めた場合にのみ取られる手続である。

手続：1.ワットタイ空港及び友好橋において査証発給を申請する。

2.あらかじめ国際協力・投資委員会へ必要な事項を FAX 等で送付する。

3.空港及び友好橋到着時、同委員会へ関係書類を提出。同委員会・入国管理局・内務省の審査の後、査証が発給となる。

滞在許可期間：15日間～1ヶ月

<ワットタイ空港での観光査証（レセパセ）の取得>

※ラオス大使館が存在しない国から観光目的で入国しようとするものがワットタイ空港で査証を得る場合。

手続：1.予め政府の指定を受けたラオの旅行社または国家観光局へ FAX 等で関係事項を送付し、ワットタイ空港で同旅行社または国家観光局へ必要関係書類を提出する。

2.入国管理局等の関係機関の審査を受けて、許可された場合には同旅行社または国家観光局の責任の下に査証の発給を受ける。

滞在許可期間：15日間（手数料：100US\$程度、査証代は取得日数で異なる。）

[隣接諸国での取得]

<ビジネス査証>

手続：手続については在京ラオス大使館で査証を取得するのと同様の手続を取る。

査証発給までの期間、費用も同様である。

滞在許可期間：3ヶ月（20\$相当）

6ヶ月（40\$相当）

1年（80\$相当）

※友好橋付近には、正規の手続を踏まず通常よりかなり高めの金額で短期間に査証の発給を行なうブローカーがいる。

<観光査証>

手続：通常、当該国のラオ側旅行社と協定を持つ旅行社を通じて申請することになるが、その会社および当該国のラオス大使館により取得までの期間・費用等に差がある。

滞在許可期間：3ヶ月（20\$相当）

6ヶ月（40\$相当）

1年（80\$相当）

その他、空港での入国手続に必要な書類は入国カード・税関カードである。機内で予め搭乗員から貰って記入しておく。

(3) 入国審査

パスポートのチェックのみで口頭による入国審査は行われていない。

(4) 税関検査

基本的に荷物を開けて調べることはあまりない。但し、金属ケース・段ボール箱は開梱するよう指示される確率が高い。また、規則上電気製品は申告の対象となっていることは承知しておいた方がよい。

(5) 空港内での留意点

赴任時には JICA 現地職員・配属先機関が車を手配・案内を行う。ラオスの通貨

キップは空港でも交換できるがドルやパーツも使えるので空港で交換する必要はない。荷物を運ぶ手押し車は1台200kipの有料である。ポーターはいない。

(6) 空港からの主な交通手段

赴任時には配属先機関が車を手配する。それ以外はタクシーが使える。市内まで6kmを約5\$で運ぶ。価格は交渉制である。英語は通じない。最近になってメーター制のタクシーが走るようになったが、運転手はメーター走行より交渉価格を好む。

(7) その他の留意点

近頃、子供が手荷物を運んで小遣いを求めるようになったが、一切相手にしないこと。ラオ人もこの風潮には眉をしかめている。

14.2 出国時

(1) 出国時の概要

出国時の空港利用税は5\$。バンコクまでのエコノミークラスは20kgを超過した分のエクセス料金を取られるが、交渉すれば無料もしくは値引きが可能である。

(2) 出国手続上の留意点

当地の専門家は6ヶ月毎のビザ更新であるので、出国時にビザ切れにならぬよう確認が必要である。ビザ取得は所属機関に依頼する。動植物検疫証明書は必要に応じて取得しておく。

14.3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

ビザの有効期限内であることを確認する。

(2) 車の処分

買手と契約書を交わし、必要となる手続きをとる。同時に前渡金を得ておく方がよい。免税特権者(外国人)に売却することもできる。車の譲渡に関しては手続きが大変面倒なため、車両に詳しい相手に売却するか、手続きに詳しい人に仲介を依頼した方がよい。また時間もかかるため余裕を持って行った方がよい。詳しくはJICA事務所にお問い合わせるとよい。

(3) 家財道具の処分

日本に送付する場合、輸出業者に見積もりを依頼する。郵便局(荷物発送部署電話：216414)でも荷物の発送ができる。1箱20kgまで。当地での輸送業者は次のとおり。

Societe Mixede Transport

電話：216276、212980

FAX：216261

所在地：23-45 Plerre Monin Rd. Ban Xieng Gnune P.O.Box 4237

J V K(Indo-Chine Movers)

電話：216413

FAX：216413

所在地：P.O.Box 3045

L F F (Lao Freight Fowarder)

電 話：313351、313321

F A X：314831

所在地：KM3 Tha Deua Rd. P.O.Box 3145

不要になった所持品をオークション方式で売却する邦人もいる。邦人は概して気前良く無料で譲渡したり、ただ同然で売ることが多いが、中古とはいえ市場価格で売買すべきである。また、カウンターパートなど世話になった方に譲るのも一方法であるが、その場合も感謝の気持ちで譲渡する物と、正当な価格で売る物は分けるべきである。後任者や他の専門家に類が及ぶためである。

- (4) 住宅の明け渡し
契約書に沿って行うこと。
- (5) 外貨持出し規制
該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

トランスインドジャパン

〒108 東京都港区芝 5-29-22 フェリス三田 405

TEL 03-3454-3391

(2) 輸入手続

アナカンで送付した場合は所属機関に通関書類を作成してもらい、空港貨物受渡し所で荷物を引き取る。JICA の携行機材の場合は後日保険証や必要な書類が送られてくるので、それを持って受け渡し所に行く。空港貨物受渡し所では、荷物の保管料を取るなので速やかに引き取ること。受付は英語が通じない上、了解できない料金の徴収を行う場合があるので必ず事情に明るい人と同行する。

(3) 輸入荷物の受取り港

船便の場合は「15-2 自動車 (2) 輸入手続」の項参照。

(4) 家財道具の購入

電気製品は電圧 (220 V、50 サイクル) の関係から当地で購入した方がよい。日本メーカーがタイなどで生産したテレビ、ビデオ、掃除機、洗濯機、冷蔵庫、電気ポット、エアコン、扇風機、電子レンジなどの電気製品が出回っており品数も豊富である。価格もさほど高くない。備え付けの家具以外に必要なものは市内の家具屋で購入できる。市内のトヨタ自動車販売店兼修理工場近くの「ビエンニノムファーニチャー (トンカンカム通り。電話：215181)」では既製品の店頭販売のほか、家具工場を擁して注文生産に応じている。ここではテーブルや椅子、本棚、ベッドなど、日本では考えられないような安値で気に入った物を作ることができる。受付の女性は英語が達者である。また、コウンボウロン通りの川に面したラタン (籐) 家具屋でも手作りの籐椅子や飾り棚が安値で入手できる。

15-2 自動車

(1) 一般状況

免税自動車の譲渡を受けることもできるが、当地で購入することもできる。日本から購入する場合は使用するまでに4～5ヶ月を要し、赴任が決まった時点で先ずすべきことは車の発注と言って差し支えない。バンコク～ビエンチャン (タナレン) 間は陸送されてくる。当地で購入した場合、車種にもよるが1ヶ月程度で入手できる。但し割高であり、細かい仕様の指定は出来ない。

ガソリン、軽油とも価格差はあまりない。市内では1996年11月現在、ガソリン1リットル 330kip、軽油1リットル 300kip 程度で売られている。どちらも不足することはない。排ガス規制なども一切ない。

(2) 輸入手続

日本からの車両は陸送されてビエンチャン近郊のタナレン港に保管される。ここに必要な書類を提出して、保管料を支払い、乗り出すことができる。保管料は日数に応じて増減する。船荷証券が到着したら所属官庁を通じて免税輸入手続きをとる。

所属先が分からなければ市内の自動車販売店や輸入業者に依頼する。100ドル程の

手数料を取られるが手間がかからず車も洗車、ワックスがけの上、自宅やオフィスに届けてくれるので便利である。

(3) 任国での購入

日本車を中心に販売店が相次いで設置され、車種、品数とも豊富である。市近郊には日本でも見かけるガラス張りの店頭販売店が多くみられる。トヨタ、三菱、ホンダ、いすずなどの日本車のほか、ヒュンダイ（韓国）が店頭販売を行っている。

三菱自動車販売店

電話：216392, 216487

FAX：213952（内田氏に連絡）

ラオトヨタ自動車販売店

電話：216823

FAX：216152

野村貿易（トヨタ、ニッサン、スズキ、スズキオートバイ）

電話/FAX：214566（黒熊氏に連絡）

(4) 自動車登録

所属機関に依頼して登録手続きをしてもらう。また、ナンバープレート、自動車登録証も所属機関を通じて行った方がよい。所属機関が手続きに不慣れな場合は自動車販売店に依頼してもよいが、若干の手数料を取られる。いわゆる車検制度はないが登録証は2年毎に更新する必要がある。

ナンバープレートは車両の所有形態によって次のように色分けされている。

青地に白文字…公用車

赤地に白文字…軍、警察車（ラオ文字2文字が軍、3文字が警察）

黄地に青文字…中国人及びベトナム人所有車

黄地に赤文字…私有車

白地に青文字（4桁）…外交官

〃（3桁）…外国人（専門家はこの色のプレートを使用）

黒地に黄文字…外国企業

黒地に白文字…民間企業

白地に黒文字…プロジェクト用仮ナンバープレート

外交官ナンバーの上2桁は次のように割り当てられている。また、この番号は外交官のみならず当該国の援助関係者が利用することがあるが、この場合、数字の前の文字が外交官と異なる。

10 - 英国	26 - (東ドイツ) 欠番
11 - オーストラリア	27 - ハンガリー
12 - フランス	28 - キューバ
13 - アメリカ	29 - ポーランド
14 - タイ	30 - 北朝鮮
15 - 日本	31 - ブルガリア
16 - フィリピン	32 - ドイツ
17 - インド	33 - エジプト

18-インドネシア	34-モンゴル
19-カンボジア	35-不明
20-ロシア	36-スウェーデン
21-中国	37-スイス
22-チェコスロバキア	38-フランス (専門家用)
23-ベトナム	39-欠番
24-ミャンマー	40-メコン委員会
25-マレーシア	

1994年10月の調べではオートバイ 49,256 台、普通車 12,208 台、トラック 3,340 台、バス 102 台が登録されている。車両の登録台数は比較級数的に増加しており、市内の交通事情は悪化の傾向が見られる。

(5) 免許証取得

当国は「道路交通に関する条約 (ジュネーブ条約)」に加盟しており、国際免許証で運転できる国である。しかし国際免許証の有効期間は1年間であり、当地に長期滞在する場合は免許証の切り替えが必要である。免許証の切り替えは国際免許証または日本の免許証から直接行える。手続きは所属機関に依頼する。免許証は3ヶ月間仮免許証を渡され、その後正式な免許証が交付される。交付に際しては手数料を取られる。オートバイ免許は自動二輪免許所持者に与えられ、原付 (50cc 未満) 免許または普通免許取得時に付随した、見なし保持者には与えられない。

市内には2ヶ所の自動車教習所があり、日本と同じように学科、構内走行、路上走行、筆記及び実技試験が行われている。免許証取得に要する費用は130~150ドルである。教習車は旧ソ連製の中古自動車であり授業、教習は全てはラオ語で行われる。

(6) 保険、税金

外国人ナンバー車及び公用車は、車両に関する税金が免除されている。交通ルールが守られていないため事故は少なくない。強制保険はないが、外国人は金持ちと見られ、過失がなくても修理代・治療代を払わされる例が多いので、対人・対物の任意保険に入る必要がある。車両保険に関してはランサン通りタラートサオ前の商業銀行ビル2階にある「Assurances Generales du Laos、電話：215903、FAX：215904」が扱っている。保険料は契約内容によって違うが1年間70~120ドル程度であり、無事故で過ごせば翌年は10%引きになる。

16. 社 交

16-1 風俗習慣

ほとんどの人達が敬虔な仏教徒であり、寺の行事には多くの人達が参加する。自分の寺の祭りに休暇を申し出ることにはためらいはない。

16-2 パーティーでの留意点

雨期の前後にパーティーや結婚式が多い。冠婚葬祭は何事も仏教カレンダーに沿って行われている。結婚式は身内で、新婦の家で入り婿の形で行われる。披露宴はホテルやレストランを借りたり、新婦の自宅でひらかれる。庭にテーブル、椅子を用意し、楽団付きで行われることが普通である。乾杯で始まり同時に食事をとる。興に乗って来れば歌と踊りの交歓の場と化す、いたって気軽な席である。服装もそれほど気取る必要はない。閉会の時間が決まっている訳でもなく、客がいなくなるまで延々と続くため、時間をみはからって好きな時に帰ってよい。お祝いとして10ドル程度を、招待状が入っていた袋に入れて渡すのが習慣のようである。パーティーには果物やウイスキーなどを持って行くとよい。結婚式やパーティーでは新郎新婦やホスト・ホステスが小さなグラスと酒を持って、客の間をまわる。最近ではウイスキーを出す例が多いが、伝統的な「ラオラーオ」の場合もある。客は飲み干す事を要求されるが、酒に自信がない場合は予めその旨を伝えて少なく注いでもらい、飲み干せない場合は他の容器や手で隠して地面に捨ててもよい。日本のように特定の人と酒を差しつ差されつ飲むことはない。まわし飲みがしきたりである。

弔事については、日本と似ており、若干の香典を包んで渡す。特に受付などないので喪主などに直接手渡す。服装はラオ人は普段着のまま、外国人はネクタイ程度で良い。黒の喪章を日本から持参しても良い。弔電とは別に花輪に贈り主の名前を書いて送ることも一般的である。葬儀用の花輪は街の花屋で準備してくれる。実際には輪ではなく、ハート型をしている。

16-3 来客時の留意点

人を自宅に招いたら玄関先で迎えること。一般にラオス人は定められた時間より遅れて行くのを美德と考えているため、7時集合でも実際に始まるのは7時半頃である。

酒を勧める場合は、先に自分で飲み干して見せる。その際、適当な口上を述べる。干した杯に酒を注ぎ、隣の者に勧める。そのまま、各人に注ぎながら座を一周し、それが終わると、隣の者が同じように口上と乾杯をして、まわり始める。全員がまわり終わるまで延々と続くので、酒に自信があっても、まともに飲み干し続けると危険である。適当なごまかし合も、座興の内と心得る。

16-4 訪問時の留意点

前述のように開始が30分～1時間遅れるのが通常であるので、自分が呼ばれた場合も適当に遅れていく。手土産を持って行くと喜ばれる。土産の中身は問われないので特に買い求める必要はない。要は気持ちの問題である。

16-5 禁止されている言動

どの国でも同じであるが、相手のメンツを潰さないことが重要である。特に人前で叱ったり罵ったり、大声をあげることは最大のタブーである。

そのほか細かいことを列記すれば次のようになる。

- ・寺やラオス人の家に入るときは靴を脱ぐこと。
 - ・女性は僧侶にさわってはならない。握手などもってのほかである。僧侶が女性に触れることは厳しい戒律違反になるからである。また、供物を直接手渡してはならない。必ず盆にのせて差し出すこと。
 - ・足を机の上に投げ出したり、足の裏を他人に向けないこと。足を組むときにも注意を要する。足の裏を向けることは侮蔑的な行為になる。
 - ・子供の頭に手を触れないこと。頭は天とつながり、仏が宿るいちばん神聖な部分とされているからである。
 - ・収入や物の値段など、お金に関する質問は嫌われる。
- これらのタブーをラオス人自身が犯す例もあり、あまり神経質になることはない。ことあるごとに仏に祈ったり、参集者の幸福を祈念するパーシーの行事などにラオス人の心が表現されており、世界で最も付き合いやすい人達ではないかと思われる。

17. 任国官公庁

当国の官公庁は緊急連絡窓口（火事、警察等）を除いて 8:00～12:00、14:00～17:00（土曜日は午前中半日）の就業時間となっている。暑い昼間を凌ぐため 2 時間の昼休みがある。多くのサラリーマン・学生は昼食時に一旦帰宅する。したがって通勤ラッシュが日に 4 回ある。部署によっては 30 分遅く出勤して、30 分早く帰宅することが日常化している。定められた祝日以外に 3 月 8 日の女性の日、3 月 22 日の人民革命党記念日、10 月 7 日の教師の日や仏教行事の日などには実質閉庁の官公庁も多い。

郵便局 216425 小包 216414

< 官庁 >

農林省 412340～7

通商省 412000

文化省 212400～27

国防省 412800～23

教育省 216000～13

大蔵省 412412～3

外務省 414014～5

保健省 214000～16

産業省 413000～10

内務省 212512

法務省 414100～7

< 国際機関 >

国連食糧農業機関 (FAO) 414501, 414503

国連難民高等弁務官 (UNHCR) 212038-9

国連開発計画 (UNDP) 213390, 213395-6

国連児童基金 (UNICEF) 315201, 315203-4

世界保健機構 (WHO) 413430-1

18. 在外日本関係機関など

ラオス日本大使館

住所：Sisangvone Rd., Vientiane

電話：414400 ～ 3

FAX：414406

執務時間：月～金曜日の8：30～12：30、14：00～17：00。ビザ、パスポート受付窓口は9：00～12：00、14：00～16：00。

ラオス、日本の祝日は原則として休み。

JICAラオス事務所

住所：Home No.31,Unit 3, That Lunag Villege, Sayattha District, Vientiane,Lao P.D.R

電話：414387

FAX：414386

19. 地方都市

当国は、1 特別市（ヴィエンチャン）、16 県、1 特別区に分かれている。県庁所在地といえども 24 時間給電され、外国人が容易に往来出来る都市は多くない。欧米の NGO はかなりの辺境地にも展開しているが、JICA としての活動地域、人員は 1997 年 3 月現在、カムワン県タケク市在住で保健医療プロジェクト専門家 6 名。協力隊はヴィエンチャン特別市 15 名、北部ウドムサイ 1 名、ルアンプラバン 3 名、シェンクワン 2 名、南部サヴァナケートに 8 名。パクセ 3 名である。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する JICA 派遣専門家および JICA 役職員等が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家および JICA 役職員等は、技術協力協定や要請文書などの国際約束により、税金の免除等一定の義務が免除されるなどの特別の条件が付与されています。

本情報は、これらの条件に基づいたものであることを、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

- 1.バングラデシュ
- 2.ブータン
- 3.ブルネイ
- 4.カンボディア
- 5.中華人民共和国
- 6.インド
- 7.インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
- 8.大韓民国
- 9.ラオス
- 10.マレーシア
- 11.ミャンマー
- 12.ネパール
- 13.パキスタン
- 14.フィリピン
- 15.シンガポール
- 16.スリ・ランカ
- 17.タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
- 18.ヴェトナム
- 19.モンゴル

-----中近東地域-----

- 1.アルジェリア
- 2.バハレーン
- 3.エジプト
- 4.イラン
- 5.ヨルダン
- 6.クウェイト
- 7.モロッコ
- 8.オマーン
- 9.カタール
- 10.サウディ・アラビア
- 11.スーダン
- 12.シリア
- 13.テュニジア
- 14.トルコ (アンカラ、イスタンブール)
- 15.アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、DMN)
- 16.イエメン (サナア)

-----太平洋地域-----

- 1.フィジー
- 2.キリバス
- 3.ミクロネシア
- 4.パラオ
- 5.バブア・ニューギニア
- 6.ソロモン諸島
- 7.ヴァヌアツ
- 8.西サモア
- 9.トンガ
- 10.マーシャル諸島

-----欧州地域-----

- 1.カザフスタン
- 2.キルギスタン
- 3.ポーランド
- 4.タジキスタン
- 5.トルクメニスタン
- 6.ウズベキスタン
- 7.ハンガリー
- 8.ブルガリア

-----アフリカ地域-----

- 1.ベナン
- 2.ブルンディ
- 3.カメルーン
- 4.カーボ・ヴェルデ
- 5.コモロ
- 6.エチオピア
- 7.ガンビア
- 8.ガーナ
- 9.ギニア
- 10.ギニア・ビサオ
- 11.コートジボアール
- 12.ケニア
- 13.リベリア
- 14.マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
- 15.マラウイ
- 16.モーリシャス
- 17.モザンビーク
- 18.ニジェール
- 19.ナイジェリア
- 20.ルワンダ
- 21.サントメ・プリンシペ
- 22.セネガル
- 23.セイシェル
- 24.ソマリア
- 25.タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
- 26.トーゴ
- 27.ザイール
- 28.ザンビア
- 29.ジンバブエ
- 30.スワジランド
- 31.ボツワナ
- 32.エリトリア

-----中南米地域-----

- 1.アルゼンティン
- 2.ボリビア (ラ・パス、サンタクルス)
- 3.ブラジル(ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
- 4.チリ
- 5.コロンビア
- 6.コスタ・リカ
- 7.ドミニカ共和国
- 8.エクアドル
- 9.グレナダ
- 10.グアテマラ
- 11.ホンデュラス
- 12.メキシコ
- 13.パナマ
- 14.パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
- 15.ペルー
- 16.セント・ルシア
- 17.トリニダード・トバゴ
- 18.ウルグアイ
- 19.ヴェネズエラ
- 20.ニカラグア

「任国情報（ラオス）1997年版」

平成9年8月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357



LIB